

HP Project and Portfolio Management Center

ソフトウェアバージョン: 9.20

HP Demand Management ユーザーガイド

ドキュメントリリース日: 2013年2月 (英語版)

ソフトウェアリリース日: 2013年2月 (英語版)



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1997-2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Intel®、Intel® Itanium®、Intel® Xeon®、およびPentium® は、Intel Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows® XP、およびWindows Vista®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

次のHPソフトウェアサポートのWebサイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com/>

HP ソフトウェアサポートオンラインでは、対話型の技術支援ツールに効率的にアクセスできます。HP ソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、**HP Passport**ユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

目次

第 1 章	はじめに.....	9
	HP Demand Management の概要.....	9
	HP Demand Management システムの概要.....	10
	リクエスト、リクエストタイプ、およびリクエストステータス.....	12
	ワークフローとワークフローステップ.....	12
	リクエスト処理とデータの整合性.....	13
	多言語 PPM Center インスタンスでの HP Demand Management の使用.....	14
	関連ドキュメント.....	15
第 2 章	リクエストの作成.....	17
	リクエストの作成の概要.....	17
	リクエストの作成.....	19
	メニューバーからリクエストを作成.....	20
	[参照] セクションからのリクエストの作成.....	24
	リクエストのコピーによるリクエストの作成.....	26
	XML ファイルからのリクエストのインポート.....	28
	XML ファイルからのリクエストのインポート.....	28
	XML ファイルのインポートによる新しいリクエストの作成.....	28
	XML ファイルのインポートによる既存のリクエストの更新.....	30
	特定の形式でのリクエストの XML ファイルへのエクスポート.....	32
	リクエストへのリソースのアサイン.....	34
	リクエストの詳細ページの [サマリ] セクションからリソースをアサインする.....	34
	リクエストの詳細ページの [リソース] セクションからリソースを割り当てる.....	37
	リクエストへの参照の追加の概要.....	38
	リクエストへ参照を追加.....	39
	添付ファイルを参照として追加する.....	39
	既存パッケージを参照として追加する.....	40
	新規パッケージを参照として追加する.....	41

	プログラムを参照として追加する	43
	プロジェクトを参照として追加する	44
	リリースを参照として追加する	45
	既存リクエストを参照として追加する	46
	新規リクエストを参照として追加する	47
	タスクを参照として追加する	48
	URLを参照として追加する	49
	リクエストのサービスの指定	50
第 3 章	リクエストの表示	53
	HP Demand Management リクエストの概要	53
	リクエストを開く	57
	リクエストの詳細ページ、上部セクション	58
	リクエストの詳細ページ、[ヘッダ]セクション	60
	リクエストの詳細ページ、[詳細]セクション	61
	[リクエストの詳細] ページ、新しいテーブルコンポーネント	61
	サポートしている検証	62
	新しいテーブルコンポーネントレイアウト	62
	テーブルコンポーネントのリクエストページでの直接編集	63
	テーブルコンポーネントの列の合計のリアルタイム表示	66
	その他の違い	68
	テーブルコンポーネントでルールを使用する場合の注意点	68
	リクエストの詳細ページ、[メモ]セクション	69
	リクエストの詳細ページ、[リソース]セクション	70
	リクエストの詳細ページ、[ステータス]セクション	71
	リクエストの詳細ページ、[グラフィックビュー]	72
	リクエストの詳細ページ、[承認の詳細]	74
	リクエストの詳細ページ、[トランザクションの詳細]	75
	リクエストの詳細ページ、[実行ログ]	75
	リクエストの詳細ページ、[参照]セクション	76
	先行タスクリレーションシップ	80
	後続タスクリレーションシップ	80
	終了/終了先行タスクリレーションシップ	80
第 4 章	リクエストの処理と管理	81
	リクエストの処理と管理の概要	81
	リクエストの検索	82
	基本リクエスト検索の実行	82
	詳細リクエスト検索の実行	84

クエリビルダを使用したリクエストの検索.....	85
リクエストクエリのコンポーネント	85
リクエストブラウザを使用したリクエストの検索.....	88
リクエスト検索結果テーブルでのアクティブなワークフローステップの表示.....	89
リクエストを開いて更新.....	90
ポートレットからリクエストを開く.....	91
電子メール通知からリクエストを開く.....	91
メニューバーからリクエストを開く.....	91
基本的なリクエスト編集の実行.....	92
リクエストの同時編集.....	96
例: 2人のユーザによるフィールドの編集.....	96
例: 2人のユーザによるフィールドとワークフローアクションの編集.....	97
例: 並列ワークフローステップ	97
クイック編集: 複数のリクエストの同時編集	98
クイック編集を実行する際の注意	98
クイック編集の実行	100
一括更新: 複数のリクエストに対するアクションの同時実行	102
一括更新を実行する際の注意	102
一括更新の実行	104
フィールドレベルのセキュリティチェック	105
リクエストの管理.....	107
クローズしたリクエストの再オープン.....	107
リクエストの削除.....	108
リクエストのキャンセル.....	109
リクエストの印刷.....	110
リクエストの削除.....	110
Demand Management レポートを使用したリクエストの監視.....	111
HP Demand Management レポートの作成.....	113
ポートレットを使用したリクエストの管理.....	114
第 5 章 リクエストとプロジェクトの統合	119
リクエストとプロジェクトの統合の概要.....	119
タスクからのリクエストの参照.....	120
第 6 章 [デマンドマネージャ] ページ	123
[デマンドマネージャ] ページの概要	123
[デマンドマネージャ] ページ上のポートレット	125
[デマンド集計] ポートレット	125
[部署別デマンド] ポートレット	126

[ビジネスイニシアチブ別デマンド] ポートレット	127
[部署別SLA例外] ポートレット	128
[イニシアチブの承認待ち] ポートレット	129
ポートレットプリファレンスの設定	130
索引	131

第 1 章 はじめに

HP Demand Management の概要

HP Demand Management は、リクエストを作成から実装まで管理する HP Project and Portfolio Management Center (PPM Center) のコンポーネントです。各リクエストは、ユーザインタフェースで視覚的に表されるワークフローを使用して処理されます。HP Demand Management には、これらのリクエストを処理するためのツールと設定可能なプロセスが備わっています。必要な情報がプロセスの適切な時期に確実に収集および検証されるよう、プロセス固有の情報の入力を求めることによって、データのキャプチャが行われます。

HP Demand Management は、さまざまな承認方法を使用することで複雑なビジネスルールに従うことができます。リクエストがさまざまなワークフローステップを通過するたびに、電子メールやページャに通知を行うよう設定できます。優先順位付け機能と委任機能を使用すると、適用されたワークフローに従ってリクエストを効率的に進め、関連する部署、グループ、または個人にワークフローをルーティングできます。

本書には、次の情報が記載されています。

- HP Demand Management では、リクエストとは、アクションとプロセスを開始および進ませる手段です。リクエストには、リクエストをワークフローに従って進める一連のアクションの実行に必要なすべての情報が含まれています。第 3 章「リクエストの表示」(53 ページ) で、HP Demand Management リクエストの主要機能に関する情報について説明します。
- HP Demand Management を使用すると、単純なソフトウェアの不具合リクエストからプロジェクト範囲の変更リクエストまで、いくつかの異なるタイプのリクエストを送信できます。第 2 章「リクエストの作成」(17 ページ) で、これらのリクエストの作成方法の詳細について説明します。

- リクエストを作成したら、そのリクエストを処理および管理します。第4章「リクエストの処理と管理」(81ページ)で、リクエストを開いて更新する方法、およびレポートとポートレットを使用してリクエストを管理する手順について説明します。
- HP Demand Management と HP Project Management の両方を所有している HP カスタマは、HP Demand Management のリクエストトラッキング機能を HP Project Management の送信可能日付および実績日付のトラッキング機能と統合できます。第5章「リクエストとプロジェクトの統合」(119ページ)で、タスクとリクエストの統合および使用方法に関する情報について説明します。
- HP Demand Management には、デマンドマネージャがリクエストの監視と管理に使用できる事前設定されたページが用意されています。第6章「[デマンドマネージャ] ページ」(123ページ)で、事前設定されたページの説明とページに表示されるポートレットについて説明します。

HP Demand Management システムの概要

HP Demand Management リクエスト解決システムは、リクエストを作成から解決までトラッキングするために使用されます。リクエスト解決システムの主要コンポーネントは、リクエストとワークフローです。

リクエストは、HP Demand Management の基本的な作業単位です。ヘルプが必要な場合、リクエストを作成します。問題を報告する場合も、リクエストを作成します。何かを実行する必要がある場合にも、リクエストを作成します。

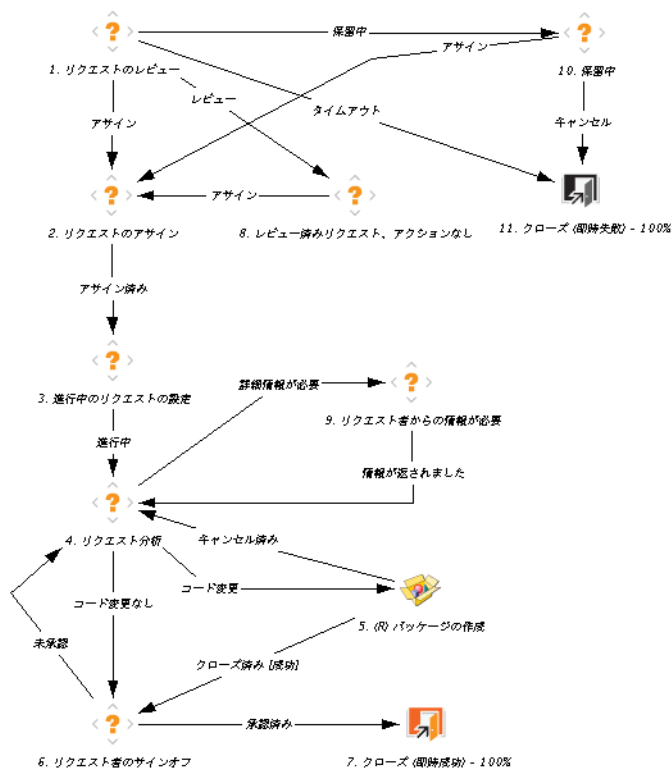
リクエストを作成したら、解決に至るためのプロセスに従わなくてはなりません。ワークフローとは、リクエストが解決に至るために辿るプロセスです。ワークフローはワークフローステップから構成され、各ワークフローステップは意思決定またアクションに対応します。

各ワークフローステップでは、情報をリクエストに追加して、既存の情報を更新できます。たとえば、機能拡張リクエストを作成して、アプリケーションに対する変更をリクエストできます。リクエスト解決プロセスの後半の段階では、機能拡張リクエストが承認されると、開発者が機能拡張リクエストの作業にアサインされます。

PPM Centerでは、リクエストの詳細ページを介してリクエストと情報をやり取りします。このリクエストの詳細ページには、リクエストに関するすべての情報が表示されます。リクエストの詳細ページは、リクエストに関する意思決定とアクションを行う場所です。

意思決定を行うか、アクションを完了したら、ユーザはリクエストの詳細ページに手動でアクセスし、意思決定またはアクションを選択する必要があります。その後、リクエストはワークフローの次のステップに進み、そこで別のユーザが意思決定または適切なアクションを実行します。図 1-1 に、サンプルリクエストのワークフローステップを示します。

図 1-1. リクエストとワークフロー



リクエスト、リクエストタイプ、およびリクエストステータス

リクエストの詳細ページには、特定のビジネスプロセスを完了するのに必要なすべての情報が表示されます。各リクエストには、「バグ」や「機能拡張」などのリクエストタイプが関連付けられています。リクエストタイプによって、含まれるフィールド、参加者、従うワークフローなど、リクエストの基本的な機能が決まります。

リクエストステータスは、リクエストの現在のステータスのサマリ指標です。たとえば、リクエストには、新規、アサイン済み、進行中のリクエストステータスがあります。リクエストがワークフローに従って移動すると、リクエストステータスが自動的に割り当てられます。HP Demand Managementには、業務のニーズに合わせて変更できるHP提供のリクエストタイプが用意されています。

ワークフローとワークフローステップ

ワークフローは、プロセスを始めから終わりまで定義する一連の論理ステップから構成されています。任意のビジネスプロセスを仮想的に処理するようにワークフローを設定できます。固定した一連のプロセスに組織を適応させるのではなく、ワークフローを作成して既存のプロセスを自動化できます。

ワークフローステップは、完全なワークフローを構成するように相互リンクされたイベントです。HP Demand Managementでは、次の4つのタイプのワークフローステップが使用されます。

- **意思決定:** 意思決定ワークフローステップでは、ユーザまたはグループは、リクエストの承認やタスクの完了など、意思決定または何らかのアクションを行う必要があります。意思決定ワークフローステップは、リソースがそのステップに相応しい意思決定またはアクションを行ったことを示すために、手動で更新されます。
- **実行:** 実行ワークフローステップでは、システムがアクションを実行し、その結果でワークフローステップを更新します。実行ワークフローステップは、トークンの値の計算など単純な場合もあれば、パッケージの作成やWebページの更新などのように複雑な場合もあります。実行ワークフローステップは自動的に更新され、アクションの結果を反映します。

- **条件:** 条件ワークフローステップは論理ステップで、AND/OR ステートメントを含めることができます。条件ワークフローステップは、すべての入力ワークフローステップを満たしてからプロセスが次のステップへ進むようにするなど、複雑なワークフロー処理に使用されます。
- **サブワークフロー:** サブワークフローワークフローステップは、リクエストに関連付けられたワークフローで使用される小さな自己完結型のワークフローです。

リクエスト処理とデータの整合性

リクエスト解決中に収集される情報は、通常、ワークフローに従ってリクエストを移動させるために必要になります。リクエスト作成時にリクエストに関連する一部の情報は利用可能ですが、その他の情報はワークフローの別のステップで取得されます。

別のワークフローステップで必要になった情報を取得するために、HP Demand Management では、条件付きフィールド動作を使用します。たとえば、新しいリクエストを作成するとします。最初は、**[アサイン先]**などのフィールドは不要で、無効にしておくこともできます。

ただし、ワークフローのあるステップで、ユーザをリクエストにアサインする必要があります。この場合、そのワークフローステップで、問題に取り組んでいるユーザまたはグループは、**[アサイン先]**フィールドへの入力が求められます。この時点で必須になったフィールドには赤色のアスタリスクが付き、ユーザがアサインされるまで、リクエストが次のワークフローに進めません。また、**[アサイン先]**フィールドへの入力が完了しない限り、リクエストを保存できません。

多言語 PPM Center インスタンスでの HP Demand Management の使用

PPM Center が複数の言語をサポートしている場合、作成または変更する HP Demand Management エンティティ (リクエストタイプ、リクエストヘッダタイプ、通知、ワークフロー、リクエストなど) にどのような影響があるかを理解しておきましょう。

複数言語ユーザインタフェース (MLU) を持つ PPM Center インスタンスで HP Demand Management を使用する場合は、次を注意してください。

- 作成するエンティティは、ログオン時に選択した言語 (セッション言語) で定義されます。エンティティの作成後、そのエンティティは定義言語でのみ変更できます。
- エンティティをセッション言語以外の言語で定義した場合、最初に定義言語を変更しない限り、エンティティを編集できません。
- PPM Workbench からエンティティをコピーし、そのエンティティがセッション言語以外の言語で定義されている場合、そのエンティティの既存の翻訳をコピーできます。
- 通知の受取人は、通知をセッション言語で閲覧表示できます。通知受取人のセッション言語が PPM Center インスタンスでサポートされていない場合は、通知の定義言語が使用されます。

セッション言語、定義言語、および複数言語ユーザインタフェース (MLU) での HP Demand Management エンティティの翻訳の詳細については、『Multilingual User Interface Guide』を参照してください。

関連ドキュメント

HP Demand Managementに関連する情報の詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- 『HP Demand Management 設定ガイド』
- 『Tracking and Managing IT Demand ユーザーガイド』
- 『Tracking and Managing IT Demand Configuration Guide』
- 『Multilingual User Interface Guide』
- 『HP Time Management ユーザーガイド』
- 『HP Time Management Configuration Guide』
- 『HP Project Management ユーザーガイド』
- 『Reports Guide and Reference』
- 『スタートアップガイド』
- 『新機能と変更点』
- 『HP エンティティガイド』: HP Demand Management のすべてのポートレット、リクエストタイプ、およびワークフローについて説明しています。

第 2 章 リクエストの作成

リクエストの作成の概要

HP Demand Management では、リクエストとは、アクションとプロセスを開始する手段です。リクエストには、一連のアクションを実行し、ワークフローに従って移動するために必要なすべての情報が含まれています。

リクエストに含まれている情報は、リクエストタイプによって異なります。たとえば、機能拡張リクエストを作成する場合、入力する情報は、アプリケーションの不具合リクエストを作成する場合とは異なります。ただし、ほとんどのリクエストタイプには、共通の基本構成があります。

18ページの図 2-1は、最小化して主要セクションのみを表示したリクエストの詳細ページです。リクエストの詳細ページの主要セクションは次のとおりです。

- ヘッダセクション: リクエストタイプ、リクエストの作成者、作成日付などの一般的な情報が含まれています。この場合、ヘッダセクションには **[サマリ]** と **[作業項目フィールド]** サブセクションがあります。
- 詳細セクション: 問題の説明、影響を受けるビジネス領域、リクエストの解決など、リクエストに固有の情報が含まれています。通常、リクエストを作成する場合、詳細セクションのいくつかのフィールドへの入力が必要です。この場合、詳細セクションのサブセクションは、**[メモ]** と **[参照]** を除く残りのセクションになります。
- **[メモ]** セクション: リクエストに関して付記する情報を入力するフィールドがあります。メモの入力はオプションです。

- [参照] セクション: リクエストに関するその他の情報を追加および表示します。たとえば、リクエストへの参照としてドキュメントを添付したり、URLを指定したりできます。

図 2-1. 一部のセクションが最小化されたリクエストの詳細ページ

DEM - アプリケーション機能拡張 30136 - Multi-Order Upgrade ステータス: 新規

初期レビュー 保存 一覧 詳細

前次実行提供済み **アサイン** 詳細情報が必要 スケジュール 却下

すべて展開する | すべて折りたたむ

- サマリ

リクエスト番号: 30136	リクエスト者: Admin User
リクエストタイプ: DEM - アプリケーション機能拡張 <input type="button" value="変更"/>	作成日時: 2013/04/12
リクエストステータス: 新規	
ワークフロー: DEM - 機能拡張リクエストプロセス	
アサイン先: <input type="text"/>	
アサイン先グループ: <input type="text"/>	
リクエスト者の部署: 発注センター <input type="text"/>	アプリケーション: その他 <input type="text"/>
優先度: 通常 <input type="text"/>	
説明: Multi-Order Upgrade	

+ 機能拡張の詳細

+ 分析

+ Demand Management SLAフィールド

+ Demand Management スケジューリング フィールド

+ メモ (メモが存在しません)

- ステータス

シーケンス	ワークフロー ステップ名	ステップステータス	完了者	日付
▶ 1	初期レビュー	初期レビュー		2013/04/12 13:19:39 JST
2	詳細情報の提供			
3	リクエスト者のサインオフ			
4	保留中			
5	ハイレベルのデザイン			
6	詳細情報の提供			
7	ハイレベル デザインのサインオフ			
8	優先順位付きキュー			
9	開発者のアサイン			
10	スクリーンショットの作成			
11	詳細デザイン			
12	詳細情報の提供			
13	テクニカル デザインのサインオフ			
14	初期開発			
15	パッケージの作成と待機			
16	次のシステムに対する承認			
18	クローズ (即時成功)			
19	クローズ (即時失敗)			

グラフィックビュー 承認の詳細 トランザクションの詳細

+ 参照

リクエストの詳細ページについては、「[リクエストの表示](#)」(53ページ)を参照してください。

リクエストの作成

リクエストを作成するには、次の場所からアクセスできる [新規リクエストの作成] ページを使用します (詳細については、後続の項で説明します)。

- メニューバー
- リクエストの詳細ページの [[参照](#)] セクション
- HP Project Management のプロジェクト
- HP Project Management のタスク
- HP Deployment Management のパッケージ
- HP Deployment Management のリリース

HP Project Management からリクエストを作成する方法については、「[リクエストとプロジェクトの統合](#)」(119ページ)を参照してください。HP Deployment Management からリクエストを作成する方法については、『[HP Deployment Management ユーザーガイド](#)』を参照してください。

メニューバーからリクエストを作成

リクエストの作成にはメニューバーを使用するのが一般的です。リクエストを作成すると、リクエストには自動的に固有の番号がアサインされ、最初から最後までトラッキングされます。これにより、リクエストのワークフロー内ですべてのステップにおけるタスクが完了したことを示すことができます。



PPM Center インスタンスが複数言語をサポートしている場合、新しいリクエストタイプを作成すると、その定義言語が自動的に現在のセッション言語に設定されます。詳細については、『Multilingual User Interface Guide』を参照してください。

リクエストを作成するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. 次のいずれかを実行します。
 - 初めてリクエストを作成する場合は、[開く] メニューで、[Demand Management] > [リクエスト] をクリックします。

[新規リクエストの作成] ページが開きます。

新規リクエストの作成

リクエスト タイプ:

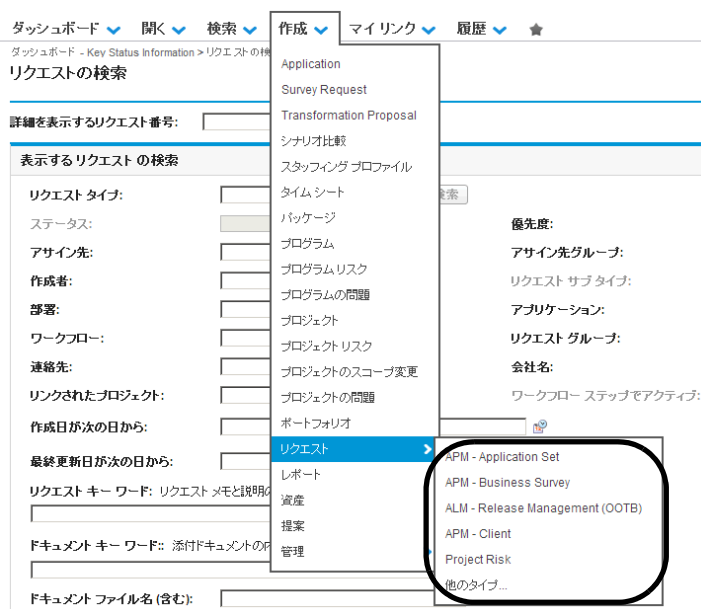
目的のアクションに基づいて作成

最近作成されたもの

[Application Set](#)

[Business Survey](#)

- 最近使用したリクエストタイプを使用してリクエストを作成するには、**[作成]**メニューで、**[リクエスト]**>**[<リクエストタイプ>]**をクリックして、**23ページの手順 5**に進みます。



[リクエストの作成] サブメニューには、最近使用したリクエストタイプが5つまでリスト表示されます。これは、**[新規リクエストの作成]** ページの **[目的のアクションに基づいて作成]** セクションにリスト表示されているリクエスト表示と対応しています。あるリクエストタイプのすべてのリクエスト(クローズしたリクエストを含む)を削除すると、そのリクエストタイプは**[リクエストの作成]** サブメニューから削除されます。**[リクエストの作成]** サブメニューは、最近作成したリクエストタイプがすべて削除されると非表示になります。

- それ以外の場合、**[作成]**メニューで、**[リクエスト]**>**[他のタイプ...]**をクリックします。

[新規リクエストの作成] ページが開きます。

3. **[リクエストタイプ]** リストから、作成するリクエストタイプを選択します。

選択するリクエストタイプは、ライセンスとアクセス許可、アサインされるセキュリティグループによって異なります。**[目的のアクションに基づいて作成]** セクションには、最近作成されたリクエストタイプがリスト表示されています。

4. [作成] をクリックします。

[新規 <リクエストタイプ> の作成] ページが開きます。

新規DEM - アプリケーション バグの作成

すべて展開する | すべて折りたたむ

送信 キャンセル

- サマリ

リクエスト者:
Admin User

リクエスト ステータス:
未リリース

ワークフロー:
DEM - バグリクエスト ワークフロー

アサイン先:

アサイン先グループ:

リクエスト者の部署:

優先度:

説明:

アプリケーション:

- 問題/解決

問題:

影響を受けるビジネス領域:

ソース:

再現可能:
 はい いいえ

再生成するステップ:

解決:

解決:

必要日:

ソースカテゴリ:

+ 環境

+ 分析

+ プロジェクト情報

+ Demand Management SLA フィールド

+ Demand Managementスケジューリング フィールド

+ メモ

+ 参照

リクエストの詳細ページに表示されるセクションは、選択したリクエストタイプによって異なります。

5. ヘッダセクションで、必要に応じてフィールドに入力します。この場合、ヘッダセクションには **[サマリ]** サブセクションがあります。

ヘッダセクションには、リクエストに関する一般的な情報を入力するためのフィールドがあります。必須フィールドには、赤色のアスタリスクが付いています。ほかのすべてのフィールドはオプションですが、これらのフィールドを使用して、リクエストをレビューしているほかのユーザに役立つ情報を提供できます。

6. 詳細セクションで、必須フィールドに入力し、リクエストに役立つその他の情報を入力します。この場合、詳細セクションのサブセクションは、**[メモ]** と **[参照]** を除く残りのセクションになります。

詳細セクションには、サブセクションを設定できます。特定のフィールドに関する情報については、フィールドの横にある **[ヘルプ]** アイコン (使用可能な場合) をクリックします。

7. **[メモ]** セクションには、ほかのユーザが使用可能なリクエストに関する追加情報を入力します。

8. 参照をリクエストに追加するには、**[参照]** セクションを使用します。

インターネットでアクセス可能なファイルを参照したり、ローカルマシンのドキュメントまたはファイルを現在のリクエストに添付したりできます。パッケージ、タスク、リクエストを参照することもできます。参照の追加方法の詳細については、「[リクエストへの参照の追加の概要](#)」(38ページ) を参照してください。

9. **[送信]** をクリックします。

[リクエストの作成が確認されました] ページが開き、新規リクエストにアサインされた番号およびリクエストの説明が表示されます。



PPM Center は、リクエストの送信前にリクエストを保存するよう設定できます。自分のサイトでこの機能を有効にするには、アプリケーション管理者に問い合せてください。

10. 送信済みリクエストに対して生成された詳細ページを表示するには、**[リクエスト番号]** をクリックします。

新しいリクエストを送信すると、HP Demand Management によって新規などの初期ステータスがアサインされ、関連付けられているワークフローに応じて、承認、意思決定、アクションという標準のビジネスプロセスに従ってルーティングされます。詳細については、「[リクエストの処理と管理](#)」(81ページ) を参照してください。

[参照] セクションからのリクエストの作成

リクエストの詳細ページの [参照] セクションからリクエストを作成できます。



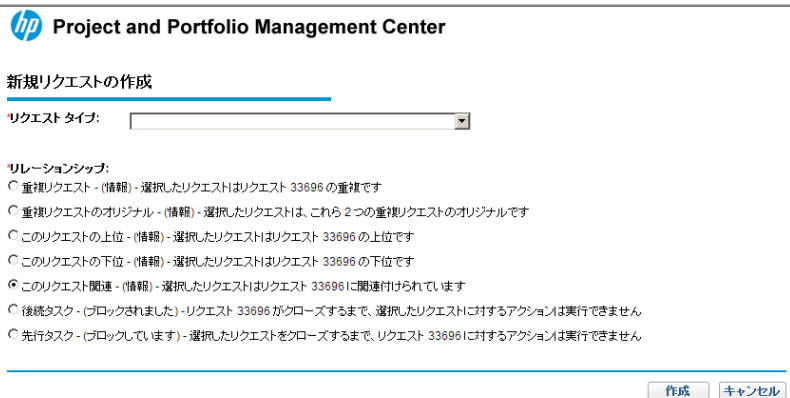
PPM Center インスタンスが複数言語をサポートしている場合、新しいリクエストタイプを作成すると、その定義言語が自動的に現在のセッション言語に設定されます。詳細については、『Multilingual User Interface Guide』を参照してください。

リクエストの詳細ページの [参照] セクションからリクエストを作成するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. [検索] メニューで、[リクエスト] をクリックします。
[リクエストの検索] ページが開きます。
3. リクエストを検索するには、検索基準を入力して、[検索] をクリックします。
4. [リクエスト検索結果] セクションの [リクエスト番号] 列で、番号をクリックして対応するリクエストを開きます。
リクエストの詳細ページが開きます。
5. [ジャンプ先] ナビゲーションパネルから [参照] をクリックします。
6. [新規参照] リストから、[リクエスト (新規)] を選択します。

7. **[追加]** をクリックします。

[新規リクエストの作成] ページが開きます。



hp Project and Portfolio Management Center

新規リクエストの作成

リクエストタイプ:

リレーションシップ:

- 重複リクエスト - (情報) - 選択したリクエストはリクエスト 33696 の重複です
- 重複リクエストのオリジナル - (情報) - 選択したリクエストは、これら 2 つの重複リクエストのオリジナルです
- このリクエストの上位 - (情報) - 選択したリクエストはリクエスト 33696 の上位です
- このリクエストの下位 - (情報) - 選択したリクエストはリクエスト 33696 の下位です
- このリクエスト関連 - (情報) - 選択したリクエストはリクエスト 33696 に関連付けられています
- 後続タスク - (ブロックされました) - リクエスト 33696 がクローズするまで、選択したリクエストに対するアクションは実行できません
- 先行タスク - (ブロックしています) - 選択したリクエストをクローズするまで、リクエスト 33696 に対するアクションは実行できません

8. **[リクエストタイプ]** リストから、作成するリクエストのタイプを選択します。

9. **[リレーションシップ]** で、新規リクエストをオープン済みリクエストと関連付けるオプションを選択します。



リクエスト間のリレーションシップの確立の詳細については、「[リクエストへの参照の追加の概要](#)」(38 ページ) を参照してください。

10. **[作成]** をクリックします。

[新規 <リクエストタイプ> の作成] ページが開きます。

11. 赤色のアスタリスクが付いているフィールドに、必須情報をすべて入力します。

12. リクエストに役立つ追加情報を入力します。



[新規 <リクエストタイプ> の作成] ページの入力方法については、「[メニューバーからリクエストを作成](#)」(20 ページ) を参照してください。

13. **[送信]** をクリックします。

リクエストのコピーによるリクエストの作成

既存のリクエストをコピーして、リクエストを作成できます。これで両方のリクエストに共通する情報の再入力が必要なくなります。



PPM Center インスタンスが複数言語をサポートしていて、既存のフィールドをコピーしてリクエストを作成した場合、元のエンティティの定義言語が異なっても、コピーアクションの結果として作成された新規リクエストでは、その定義言語が自動的に現在のセッション言語に設定されます。詳細については、『Multilingual User Interface Guide』を参照してください。

既存のリクエストをコピーするには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. リクエストを開きます。



リクエストを開くには、「[リクエストを開いて更新](#)」(90 ページ) を参照してください。

リクエストの詳細ページが開きます。

3. 右上隅の **[コピー]** をクリックします。

[リクエストのコピー] ページが開きます。

4. 元のリクエストに関連付けられているメモを新しいリクエストに追加するには、**[リクエストメモのコピー]** チェックボックスを選択したままにします。
5. 元のリクエストに関連付けられている参照を新しいリクエストに追加するには、**[リクエスト参照のコピー]** チェックボックスを選択したままにします。
6. **[コピー]** をクリックします。

[新規<リクエストタイプ>の作成] ページが開き、コピーされた情報が表示されます。ヘッダセクションと詳細セクションのすべてのフィールドの値が新しいリクエストに複製されます。

- 必要に応じてフィールドの値を変更し、[送信] をクリックします。

[リクエストのコピーが確認されました] ページに、リクエストが正常にコピーされたことが示されます。

リクエストのコピーが確認されました

次のリクエストが作成および送信されました:

リクエスト番号: 34457 説明: Add new purchasing codes for KMM subsidiary

既存のリクエストからコピーされました:

リクエスト番号: 30905 説明: Add new purchasing codes

- 新規リクエストまたはコピーされたリクエストを開くには、表示されているリクエスト番号をクリックします。

XMLファイルからのリクエストのインポート

XMLファイルをコンピュータ上で作成し、XMLバージョンのリクエストが必要なプロセスを完了させるため、次のタスクを実行できます。

- 「XMLファイルからのリクエストのインポート」
- 「特定の形式でのリクエストのXMLファイルへのエクスポート」

XMLファイルからのリクエストのインポート

[XMLからのリクエストのインポート]メニューオプションを使用して、XMLファイルをリクエストとしてインポートできます。Webページでは、XMLファイルをXSLTテンプレートと同様に入力として使用し、指定したXMLファイルをインポートして新しいリクエストを作成または既存のリクエストを更新します。



インポートタスクを実行するには、「Demand Mgmt: リクエストのインポート」アクセス許可が必要です。

XMLファイルのインポートによる新しいリクエストの作成

XMLファイルをインポートして新しいリクエストを作成するには

1. PPM Centerにログインします。

2. **[開く]** メニューで、**[Demand Management]** > **[XMLからのリクエストのインポート]** をクリックします。

[XMLからのリクエストのインポート] ページが開きます。

XMLからのリクエストのインポート

インポートする XML ファイルを選択し、入力 XML の変換に使用する XSL テンプレートを指定します。

*インポートする XML ファイル: [参照...](#)

XSL テンプレート: ▼

新規リクエストの作成
 既存のリクエストの更新
既存のリクエストの更新を選択した場合、リクエスト ID が必要です。

リクエスト ID:

3. **[インポートするXMLファイル]** フィールドで **[参照]** をクリックして、インポートする XML ファイルを検索して選択します。
4. **[XSL テンプレート]** フィールドで、ドロップダウンボタンをクリックして、インポートした XML ファイルに関連付ける XML テンプレートを選択します。

XSL テンプレートは、管理者ユーザが PPM Workbench で設定します。XSL テンプレートの設定の詳細については、『HP Demand Management Configuration Guide』を参照してください。


5. **[新規リクエストの作成]** を選択します。
6. (オプション) 初めて XML ファイルをインポートする場合は、正式にインポートする前にテストすることもできます。この場合、**[テスト]** ボタンをクリックします。

XML ファイルが正常にインポートされるかがテストされます。

- テスト結果ページに「テストは正常に完了しました。」と表示された場合、**手順 7**に進んでください。
- 「受信XMLファイルの解析中にエラーが発生しました...」と表示された場合、原因を解決し、XML がインポートできるようにしてください。

7. **[インポート]** ボタンをクリックします。

8. インポート結果と、新しく作成されたリクエストのIDを確認します。



インポートされたXMLが選択したXSLテンプレートと一致しない場合でも「テスト/インポートは正常に完了しました」というメッセージが表示されますが、対応するリクエストIDは生成されず、ログに「pass:0」と記録されます。

9. **[戻る]** をクリックして、**[XMLからのリクエストのインポート]** ページに戻ります。

XMLファイルのインポートによる既存のリクエストの更新

XMLファイルをインポートして既存のリクエストの更新するには

1. PPM Centerにログオンします。
2. **[開く]** メニューで、**[Demand Management] > [XMLからのリクエストのインポート]** をクリックします。

[XMLからのリクエストのインポート] ページが開きます。

3. **[インポートするXMLファイル]** フィールドで**[参照]** をクリックして、インポートするXMLファイルを検索して選択します。
4. **[XSLTテンプレート]** フィールドで、ドロップダウンボタンをクリックして、インポートしたXMLファイルに関連付けるXSLTテンプレートを選択します。

XSLTテンプレートは、管理者ユーザがPPM Workbenchで設定します。XSLTテンプレートの設定の詳細については、『HP Demand Management Configuration Guide』を参照してください。

5. **[既存のリクエストの更新]** を選択します。

これで、**[Request ID]** フィールドが有効になります。

6. **[Request ID]** フィールドのセレクトアイコンをクリックします。

ポップアップウィンドウに、利用可能なすべての選択肢がリスト表示されます。検索フィルタを入力して目的のリクエストIDを探るか、リストから値を選択します。

リクエスト番号	リクエストタイプ	説明	作成者	部署
30125	Project Details		admin	
30152	Project Details		admin	
30154	Bug	aaa	admin	Finance
30182	Bug	1	admin	Finance
30212	Project Details		admin	
30242	Bug	111	admin	Finance
30243	Bug	222	admin	Manufacturing
30272	Bug	Defect when upgrading	admin	Manufacturing
30302	PFM - Proposal		admin	
30305	ZIYRT	1245	admin	

7. (オプション) 初めてXMLファイルをインポートする場合は、正式にインポートする前にテストすることもできます。この場合、**[テスト]** ボタンをクリックします。

XMLファイルが正常にインポートされるかがテストされます。

- テスト結果ページに「テストは正常に完了しました。」と表示された場合、**手順 8**に進んでください。
- 「受信XMLファイルの解析中にエラーが発生しました...」と表示された場合、原因を解決し、XMLがインポートできるようにしてください。

8. **[インポート]** ボタンをクリックします。

9. インポート結果と、新しく作成されたリクエストのIDを確認します。

▶ インポートされたXMLが選択したXSLテンプレートと一致しない場合でも「テスト/インポートは正常に完了しました」というメッセージが表示されますが、対応するリクエストIDは生成されず、ログに「pass:0」と記録されます。

10. **[戻る]** をクリックして、**[XMLからのリクエストのインポート]** ページに戻ります。

特定の形式でのリクエストのXMLファイルへのエクスポート

レポートを作成して、リクエストを特定の形式でXMLにエクスポートするには

1. PPM Centerにログオンします。
2. [開く]メニューで、[レポート]>[レポートの作成]をクリックします。

[新規レポートの送信]ページが開きます。

3. [カテゴリ別にレポートを選択]セクションで次を選択します。

- [レポートカテゴリ]で、該当するカテゴリを選択します。
- 新しく作成したレポートタイプのリンクをクリックします。

[レポートの送信:<レポート名>]ウィンドウが開きます。

レポートの送信: Sample Report

送信 キャンセル

レポートパラメータ デフォルトに戻す

*Request ID

*Template

スケジューリングと出力のオプション

レポートを今すぐ実行

レポートを次の日に実行: 繰り返し開始 時間 終了日

次の宛先に電子メールを送信: Admin User (レポート完了時)

詳細通知

送信 キャンセル

4. [レポートパラメータ]セクションの、
 - a. [Request ID] フィールドで、セレクトアイコンを使用してリクエスト番号を指定します。
 - b. [テンプレート] フィールドで、セレクトアイコンを使用してテンプレートを選択します。


5. [送信] をクリックします。

[レポートの送信] ウィンドウが開きます。レポートが完了するとステータスは更新されます。

レポートの送信

Request Summary Reportは正常に送信されました。

開始時刻: 13/04/03 20:14:59 MDT
レポート番号: 31470
送信者: Admin User



このウィンドウは、レポートが完了するまで5秒ごとにリフレッシュされます。

ステータス: 新規

6. 完了したXMLレポートは、別ウィンドウに表示されます。


```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
- <requests xmlns:omb="https://OMB300.gov" date_format="YYYY-MM-DD">
- <request>
  <requestType>Enhancement</requestType>
- <field>
  <token>REQ.CREATED_BY_NAME</token>
- <value>
- <tr>
- <table>
- <tr>
  <td>REQD.FIRST_CONSULTANT_NAME</td>
  <td />
</tr>
- <tr>
  <td>REQD.TOTAL_EFFORT</td>
  <td>24852</td>
</tr>
- <tr>
  <td>REQD.CONTACT_INFO</td>
  <td />
</tr>
- <tr>
  <td>REQD.PRODINFO</td>
  <td />
</tr>
- <tr>
```

リクエストへのリソースのアサイン

リクエストを作成または編集する場合、リクエストの詳細ページの **[サマリ]** セクションまたは **[リソース]** セクション (管理者がリソーストラッキングを有効にしている場合) から、リソースを手動でリクエストにアサインできます。

リクエストの詳細ページの **[サマリ]** セクションからリソースをアサインする

リクエストの詳細ページの **[サマリ]** セクションから個々のリソースをアサインするには、次の手順を実行します。

1. **[アサイン先]** フィールドの右側にあるリソースセクタアイコン  をクリックします。

[検索と選択] ウィンドウが開きます。

2. 次のいずれかを行います。
 - リストされているリソースをスクロールして、アサインするリソースを選択します。

リストされているリソースの数を制限するには、次の手順を実行します。


- a. **[アサイン先]**、**[部署]**、**[名]**、**[姓]** の各フィールドを任意に組み合わせ、検索プリファレンスを入力します。
- b. **[検索]** をクリックします。
- c. 表示されたリソースのリストから、リソース名を選択します。

[検索と選択] ウィンドウが閉じ、**[アサイン先]** フィールドに選択したリソース名が表示されます。



リソースを追加するには、リクエストを保存するか、新規リクエストの場合は、リクエストを送信する必要があります。

[サマリ]セクションから複数のリソースをアサインするには、次の手順を実行します。

1. [アサイン先] フィールドの右側にあるリソースセクタアイコンをクリックします。

[アサインするリソースの選択] ページが開きます。

2. [可用性が次の日から] フィールドを使用して、リソースにアサインする予定の日付範囲を指定します。
3. リソースに特定のスキルを指定するには、次の手順を実行します。
 - a. [スキルの追加] をクリックします。
 - b. 指定が可能なスキルを選択します。
 - c. [理想的な技能] リストで、リソースに求めるこのスキルの技能レベルを選択します。
4. リソースの検索結果をさらに絞り込むには、次の表にリストされているオプションのフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
適合スコアが次の値より大きい結果のみ表示	ロール、スキル、可用性に基づいて、リクエストに対するリソースの適合性を表す数値を指定します。スコアが高いほど、そのリソースのリクエストへのアサインが適合していることとなります。適合スコアの詳細については、『HP Resource Management ユーザーガイド』を参照してください。
リソース名	複数のリソースを名前で選択します。
ロール	リソースが所属する必要がある1つまたは複数のロールを選択します。
リソースプール	リクエストにアサインするリソースプールを指定します。
組織単位	リソースが所属する必要がある組織単位を選択します。

フィールド	説明
リソースカテゴリ	リソースが所属する必要がある1つまたは複数のリソースカテゴリを選択します。
場所	リストから、リソースを配置する必要があるサイトを選択します。
部署	リストから、リソースが所属している必要がある部署を選択します。

5. **[検索]** をクリックします。

[リソース結果] タブに、検索基準を満たすリソースがリスト表示されます。

6. 指定した日付範囲でリストされたリソースの負荷を表示するには、表示させたいリソースのチェックボックスを選択し、**[リソース負荷の表示]** をクリックします。

[リソース負荷内訳 - アサインサマリ] ウィンドウが開き、指定した期間の選択したリソースの作業割り当てが表示されます。

7. リストされている2人以上のリソースのスキルを比較するには、表示させたいリソースのチェックボックスを選択し、**[スキルの比較]** をクリックします。

[スキルの比較] ウィンドウが開き、選択した各リソースのスキルとスキルレベルが表示されます。



リソースを追加するには、リクエストを保存するか、新規リクエストの場合は、リクエストを送信する必要があります。

リクエストの詳細ページの [リソース] セクションからリソースを割り当てる

管理者が HP Demand Management のリソーストラッキング機能を有効にし、必要な権限が与えられている場合、リクエストの詳細ページの [リソース] セクションからリクエストのリソース割り当てを管理できます。

[リソース] セクションからリソースをリクエストに割り当てるには、次の手順を実行します。

1. リクエストの詳細ページで、[リソース] セクションを展開します。

2. [リソースの追加] をクリックします。

[検索と選択] ウィンドウが開きます。

3. 次のいずれかを行います。

- リストされているリソースをスクロールして、アサインするリソースを選択します。

リストされているリソースの数を制限するには、次の手順を実行します。

- a. [アサイン先]、[部署]、[名]、[姓] の各フィールドを任意に組み合わせて検索プリファレンスを入力します。
- b. [検索] をクリックします。
- c. 表示されたリソースのリストから、リソース名を選択します。

[検索と選択] ウィンドウが閉じ、[リソース] セクションに選択したリソース名が表示されます。

4. 追加したばかりのリソースをコミットするには、次のいずれかを実行します。

- 新規リクエストの場合は、[送信] をクリックします。
- それ以外の場合は、[保存] をクリックします。

リクエストへの参照の追加の概要

リクエストの詳細ページの **[参照]** セクションを使用すると、リクエストに関連する補足情報を追加 (および表示) できます。たとえば、リクエストに関する詳細情報を提供するドキュメントまたはWebページのURLを追加できます。

次の参照タイプをリクエストに関連付けることができます。

- 添付ファイル
- パッケージ (新規および既存)
- その他のプログラム
- プロジェクト
- リリース
- リクエスト (新規および既存)
- タスク
- URL

パッケージやその他のリクエストなど、一部の参照については、元のリクエストに対する依存リレーションシップを設定できます。たとえば、リクエストはパッケージの先行タスクであるため、リクエストを閉じるまで、パッケージをワークフローに沿って継続できないように指定できます。参照と可能な依存関係リレーションシップのリストについては、「[リクエストの詳細ページ](#)、**[参照] セクション**」(76ページ)を参照してください。

リクエストへ参照を追加

この項では、さまざまなタイプの参照をリクエストに追加する手順について説明します。

添付ファイルを参照として追加する

添付ファイルを参照としてリクエストに追加するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログインします。
2. リクエストを開くか、作成します。
3. **[ジャンプ先]** ナビゲーションパネルから **[参照]** をクリックします。
4. **[新規参照]** リストから、**[添付ファイル]** を選択します。
5. **[追加]** をクリックします。

[ドキュメントの追加] ウィンドウが開きます。

6. **[ファイル]** フィールドに、参照として追加するドキュメントファイルの名前を入力します。



添付するファイルの名前には、アポストロフィを含めることはできません。アポストロフィが含まれている場合、次回リクエストを開いたときにスクリプトエラーが発生します。

7. **[作者]** フィールドでは、自分の名前を添付ファイルの作者名と置き換えることができます。
8. **[説明]** フィールドでは、添付ファイルの説明を入力できます。
9. **[追加]** をクリックします。

リクエストの詳細ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、参照された添付ファイルがリスト表示されます。

10. **[保存]** をクリックします。



添付ファイルを参照として追加するには、リクエストを保存する必要があります。

既存パッケージを参照として追加する

リクエストに対して既存のパッケージを参照できます。

既存パッケージを参照するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. リクエストを開くか、作成します。
3. [ジャンプ先] ナビゲーションパネルから[参照]をクリックします。
4. [新規参照] リストから、[パッケージ (既存)] を選択します。
5. [追加] をクリックします。

[参照の追加: パッケージ] ウィンドウが開きます。

6. 利用できるフィールドに検索基準を入力します。
7. [検索] をクリックします。

[パッケージ検索結果] セクションに、検索基準に一致するパッケージがリスト表示されます。このセクションには、リレーションシップタイプのリストも含まれています。

8. [選択したパッケージのリクエスト番号 <リクエスト番号> に対するリレーションシップを選択] で、リクエストとパッケージ間のリレーションシップを記述しているオプションをクリックします。

参照の追加: パッケージ

選択したパッケージのリクエスト番号 33685 に対するリレーションシップを選択

- このリクエストの下位 - (情報) - 選択したパッケージのリクエスト 33685 の下位です
- このリクエスト関連 - (情報) - 選択したパッケージのリクエスト 33685 に関連付けられています
- 先行タスク - (ブロックしています) - 選択したパッケージをクローズするまで、リクエスト 33685 に対するアクションは実行できません
- 後続タスク - (ブロックされました) - リクエスト 33685 がクローズするまで、選択したパッケージに対するアクションは実行できません

パッケージ検索結果							1 - 17 / 17 を表示	
パッケージ番号 ▼	ワークフロー	ステータス	優先度	アサイン先	パッケージ行	説明		
<input type="checkbox"/> 30019	PPM Migrator Workflow	進行中	Low		3	Extracting PFM request types		
<input type="checkbox"/> 30017	Standard Deployment	進行中	High		2	Invoicing updates		
<input type="checkbox"/> 30015	Standard Deployment	新規	High			Enrollment report modifications		
<input type="checkbox"/> 30007	Standard Deployment	進行中	High		2	Update Customer Configurations		
<input type="checkbox"/> 30006	Standard Deployment	進行中	Low	ckent	2	Reporting changes		

すべてチェック すべてクリア 1 - 17 / 17 を表示

9. [パッケージ検索結果] セクションで、追加するパッケージ名の横にあるチェックボックスを選択します。

10. **[追加]** をクリックします。

リクエストの詳細ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、パッケージ名とそのリクエストに対するリレーションシップが表示されます。

11. **[保存]** をクリックします。

[参照] セクションの **[パッケージ]** サブセクションに、参照されたパッケージがリストされています。



パッケージを参照として追加するには、リクエストを保存する必要があります。

新規パッケージを参照として追加する

新規パッケージを作成して、リクエストへ参照として追加できます。

新規パッケージを参照するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. リクエストを開くか、作成します。
3. **[ジャンプ先]** ナビゲーションパネルから **[参照]** をクリックします。
4. **[新規参照]** リストから、**[パッケージ (新規)]** を選択します。
5. **[追加]** をクリックします。

[新規パッケージの作成] ウィンドウが開きます。

6. **[リレーションシップ]** で、新規パッケージとオープン済みリクエストとのリレーションシップを記述しているオプションを選択します。
7. **[作成]** をクリックします。

[新規パッケージの作成] ウィンドウが開きます。リクエストからの一致した任意のヘッダ情報 (説明、優先度、パッケージタイプなど) は、自動的にパッケージに追加されます。

Package No: 30043

保存 キャンセル

ヘッダ

パッケージ番号:	<input type="text" value="30043"/>	パッケージグループ:	<input type="text"/>	作成者:	Admin User
説明:	<input type="text" value="pd154ds0.c0a.com"/>	作成日時:	2013/04/03		
ワークフロー:	<input type="text"/>	ステータス:	新規		

アサインされたユーザ: 優先度: 上位:

アサイン先グループ: パッケージタイプ: 優先度シーケンス:

達成率 (%): 0

メモ

保存時に追加されるメモ:

参照

参照の追加

新規参照:

添付ファイル

保存時に追加される参照:

保存 キャンセル

- 必要なすべての情報、および利用可能にする任意の情報を入力して、[保存] をクリックします。

リクエストの詳細ページの [保存時に追加される参照] フィールドに、新しいパッケージ名がリスト表示されます。

- [保存] をクリックします。



パッケージを参照として追加するには、リクエストを保存する必要があります。

プログラムを参照として追加する

リクエストに対して既存のプログラムを参照できます。

既存のプログラムを参照するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. リクエストを開くか、作成します。
3. **[ジャンプ先]** ナビゲーションパネルから **[参照]** をクリックします。
4. **[新規参照]** リストから、**[プログラム]** を選択します。
5. **[追加]** をクリックします。

[参照プログラム] ウィンドウが開きます。

6. **[プログラム]** フィールドに、リクエスト参照として追加するプログラムの名前を入力します。
7. **[リレーションシップ]** で、プログラムをリクエストと関連付ける方法を選択します。
8. **[追加]** をクリックします。

リクエストの詳細ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、プログラム名がリストされ、そのリクエストに対するリレーションシップが表示されます。

9. **[保存]** をクリックします。



プログラムを参照として追加するには、リクエストを保存する必要があります。

プロジェクトを参照として追加する

既存のプロジェクトを参照として添付するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. リクエストを開くか、作成します。
3. リクエストの詳細ページで、**[参照]** セクションを展開します。
4. **[新規参照]** リストから、**[プロジェクト]** を選択します。
5. **[追加]** をクリックします。

[参照の追加: プロジェクト] ウィンドウが開きます。

6. 必要な情報、および記録する任意の情報を入力して、**[検索]** をクリックします。

[参照の追加: プロジェクト] ウィンドウに、検索基準に一致するリレーションシップタイプとプロジェクトがリスト表示されます。

7. **[選択したプロジェクトのリクエスト番号<リクエスト番号>に対するリレーションシップを選択]** で、プロジェクトをリクエストと関連付けるオプションを選択します。
8. **[表示するプロジェクトの選択]** セクションで、参照としてリクエストに追加するプロジェクトのチェックボックスを選択します。
9. **[追加]** をクリックします。

リクエストの詳細ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、プロジェクト名がリストされ、そのリクエストに対するリレーションシップが表示されます。

10. **[保存]** をクリックします。



参照を追加するには、リクエストを保存または送信する必要があります。

これで、リクエストの詳細ページに選択したプロジェクトがリスト表示されます。

リリースを参照として追加する

既存のリリースを参照としてリクエストに追加できます。

既存のリリースを参照するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログインします。
2. リクエストを開くか、作成します。
3. **[ジャンプ先]** ナビゲーションパネルから **[参照]** をクリックします。
4. **[新規参照]** リストから、**[リリース]** を選択します。
5. **[追加]** をクリックします。

[参照リリース] ウィンドウが開きます。

6. **[リリース]** フィールドに、リリースのバージョンを入力します。
7. **[リレーションシップ]** で、リリースとオープン済みリクエストとのリレーションシップを記述しているオプションを選択します。
8. **[追加]** をクリックします。

リクエストの詳細ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、リリース名がリストされ、そのリクエストに対するリレーションシップが表示されます。

9. **[保存]** をクリックします。



リリースを参照として追加するには、リクエストを保存する必要があります。

既存リクエストを参照として追加する

既存リクエストを参照としてリクエストに追加できます。

既存リクエストを参照するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログインします。
2. リクエストを開くか、作成します。
3. **[ジャンプ先]** ナビゲーションパネルから **[参照]** をクリックします。
4. **[新規参照]** リストから、**[リクエスト (既存)]** を選択します。
5. **[追加]** をクリックします。

[参照の追加: リクエスト] ウィンドウが開きます。

6. オープン済みリクエストを参照するリクエストを検索するには、検索基準を入力して、**[検索]** をクリックします。

[参照の追加: リクエスト] ウィンドウに、指定可能なリレーションシップタイプがリスト表示されます。**[リクエスト検索結果]** セクションに、検索基準に一致するリクエストがリスト表示されます。

7. **[選択したリクエストのリクエスト番号 <リクエスト番号> に対するリレーションシップを選択]** で、選択しようとしているリクエストをオープン済みリクエストと関連付けるオプションを選択します。
8. **[リクエスト検索結果]** セクションで、追加するリクエストの横にあるチェックボックスを選択します。
9. **[追加]** をクリックします。

リクエストの詳細ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、選択したリクエストがリスト表示されます。

10. **[保存]** をクリックします。



参照を追加するには、オープン済みリクエストを保存する必要があります。

リクエストの詳細ページの **[参照]** セクションの **[リクエスト]** サブセクションに、参照されたリクエストがリスト表示されます。

新規リクエストを参照として追加する

新規リクエストを参照として既存リクエストに追加できます。

新規リクエストを参照するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログインします。
2. リクエストを開くか、作成します。
3. **[ジャンプ先]** ナビゲーションパネルから **[参照]** をクリックします。
4. **[新規参照]** リストから、**[リクエスト (新規)]** を選択します。
5. **[追加]** をクリックします。

[新規リクエストの作成] ページが開きます。

6. **[リクエストタイプ]** リストから、作成するリクエストのタイプを選択します。
7. **[リレーションシップ]** で、新規リクエストをオープン済みリクエストと関連付ける方法を記述するオプションを選択します。
8. **[作成]** をクリックします。

[新規<リクエストタイプ>の作成] ウィンドウに、選択したリクエストタイプで利用できるフィールドが表示されます。

9. 必要なすべてのフィールドの情報、および記録する任意の情報を入力します。
10. **[送信]** をクリックします。
元の (オープン済み) リクエストの詳細ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、選択したリクエストがリスト表示されます。
11. **[保存]** をクリックします。

リクエストの詳細ページの **[参照]** セクションの **[リクエスト]** サブセクションに、追加した新規リクエストがリスト表示されます。

タスクを参照として追加する

タスクを参照としてリクエストに追加できます。

既存のタスクを参照するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログインします。
2. リクエストを開くか、作成します。
3. **[ジャンプ先]** ナビゲーションパネルから **[参照]** をクリックします。
4. **[新規参照]** リストから、**[タスク]** を選択します。
5. **[追加]** をクリックします。

[参照の追加: タスク] ウィンドウが開きます。

6. 提供されたフィールドを使用して、検索基準を入力します。
7. **[検索]** をクリックします。

[参照の追加: タスク] ウィンドウに、検索基準に一致するタスクがリスト表示されます。



リクエストとタスク間に存在できるリレーションシップは、「このタスク関連」のみです。

8. **[表示するタスクの選択]** セクションで、参照としてオープン済みリクエストに追加するタスクのチェックボックスを選択します。
9. **[追加]** をクリックします。

これでリクエストの詳細ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、選択したリクエストがリスト表示されます。

10. **[保存]** をクリックします。

リクエストの詳細ページの **[参照]** セクションの **[タスク]** セクションに、追加したタスクがリスト表示されます。

URLを参照として追加する

リクエストに対して既存のURLを参照できます。

既存のURLを参照するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. リクエストを開くか、作成します。
3. **[ジャンプ先]** ナビゲーションパネルから **[参照]** をクリックします。
4. **[新規参照]** リストから、**[URL]** を選択します。
5. **[追加]** をクリックします。

[参照URL] ウィンドウが開きます。

6. **[URL]** フィールドに、URLアドレスを入力します。
7. URLをテストするには、**[URLの表示]** をクリックします。
8. **[説明]** フィールドでは、URLの短い説明を入力できます。
9. **[OK]** をクリックします。

オープン済みリクエストの詳細ページの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、指定したURLがリスト表示されます。

10. **[保存]** をクリックします。

リクエストの詳細ページの **[参照]** セクションの **[URL]** セクションに、追加したURLがリスト表示されます。

リクエストのサービスの指定

管理者が [リクエスト作成] ページの [サービス] フィールドを有効にし、サービスに必要なリクエストタイプを作成した場合、リクエストの作成および送信時に各リクエストを1つのサービスに関連付けることができます。

リクエストのサービスを指定するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center の [新規リクエストの作成] ページで、[リクエストタイプ] リストから、今作成した [新規リクエストタイプ] を選択して、たとえば、[電子メールアカウント] を作成するとします。

新規リクエストの作成

リクエスト タイプ:

電子メールアカウント: 説明がありません。

2. [作成] をクリックします。

[新規 <リクエストタイプ> の作成] ページが開きます。[サービス] フィールドが使用可能になっていることに注意してください。

新規電子メールアカウントの作成

すべて展開する | すべて折りたたむ

送信 キャンセル

- サマリ

作成者:
Admin User

部署:

ワークフロー:
リクエスト タイプ ワークフロー

優先度:

アサイン先:

リクエスト グループ:

説明:

サブタイプ:

アロケーション:

アサイン先グループ:

リクエスト ステータス:
未送信

連絡先名:

連絡先電話番号:

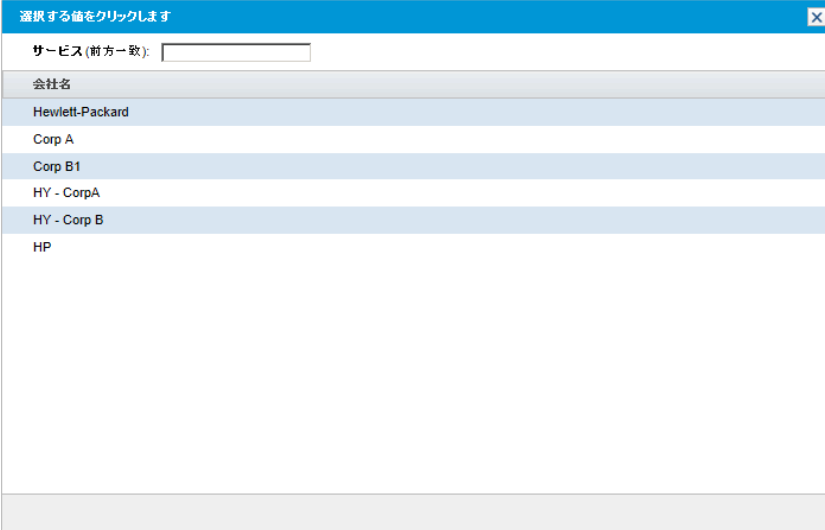
連絡先電子メール:

- サービス

サービス:

3. [サービス] セクションで、[サービス] フィールドのセクタアイコンをクリックします。

ポップアップウィンドウに、利用可能なすべてのサービスがリスト表示されます。



会社名
Hewlett-Packard
Corp A
Corp B1
HY - CorpA
HY - Corp B
HP

4. リストから新規リクエストに関連付けるサービスを選択します。
5. 必要に応じてページのほかのフィールドに入力します。

HP Demand Management からのリクエストの作成の詳細については、『HP Demand Management 設定ガイド』を参照してください。

6. [送信] をクリックします。

第3章 リクエストの表示

HP Demand Management リクエストの概要

HP Demand Management リクエスト解決システムは、リクエストを作成から解決までトラッキングするために使用されます。HP Demand Management リクエストは、高度な設定をすることができます。このため、実際のセクションとフィールドは、リクエストタイプによって異なる可能性があります。通常、リクエストタイプはそれぞれ、固有のワークフローに関連付けられています。

リクエストの情報を更新するには、リクエストの詳細ページを使用します。リクエストの詳細ページには、リクエストに関するすべての情報が含まれています。リクエストの詳細ページは、リクエストに関する意思決定とアクションが実行される場所でもあります。

PPM Center 管理者は、HP Demand Management を使用して、さまざまなリクエストタイプの詳細ページに表示される任意のフィールドのリクエストヘルプコンテンツを作成できます。管理者があるフィールドのリクエストヘルプを追加した場合、そのフィールドの右側に [ヘルプ] アイコン (図 3-1) を表示できます。そのフィールドの詳細情報を表示するには、このアイコンをクリックします。

図 3-1. リクエストヘルプアイコン



図 3-2は、一部のセクションが最小化された既存のDEM - アプリケーション機能拡張タイプのリクエストの詳細ページです。リクエストの詳細ページの主なセクションは次のとおりです。

- リクエストの詳細ページの上部には、リクエストタイプ、リクエスト番号、および現在のワークフローステップでリクエストに対して実行できるアクションが表示されます。詳細ページのこの上部領域に表示される情報は、リクエストを作成して送信した後で利用可能になります。
- [ヘッダ]セクション: 次の2つのサブセクションがあります。
 - [サマリ]: このサブセクションには、リクエストの作成者、作成日付、リクエストタイプなどの情報が表示されます。

- [作業項目フィールド]:

リクエストを作成する場合、通常、ヘッダセクションのいくつかのフィールドに入力する必要があります。アクティブな任意のフィールドの情報は、リクエストを送信すると更新できるようになります。ヘッダセクションは、リクエストの作成後に使用可能になります。

- [詳細]セクション: 次のサブセクションがあります。

- [機能拡張の詳細]

- [分析]

- [Demand Management SLA フィールド]

- [Demand Management スケジューリングフィールド]

詳細セクションには、問題の説明、影響を受けるビジネス領域、リクエストの解決に必要なものなど、リクエストに固有の情報が表示されます。リクエストを作成する場合、通常、詳細セクションのいくつかのフィールドに入力する必要があります。アクティブな任意のフィールドの情報は、リクエストを送信すると更新できるようになります。詳細セクションは、リクエストの作成後すぐに使用可能になります。

- [メモ]セクション: メモを追加したり、リクエストですでに送信済みの既存のメモを表示したりします。メモの追加は、リクエストを作成してからは、リクエスト送信後に可能です。[メモ]セクションは、リクエストの作成後すぐに使用できます。

- **[ステータス] セクション:** リクエストステータスが表示されます。このセクションは、リクエストの作成および送信後に使用可能になります。
- **[参照] セクション:** リクエストに関するその他の情報を表示または追加できます。たとえば、リクエストに対する参照としてドキュメントまたはURLを追加できます。**[参照]** セクションは、リクエストの作成後すぐに使用可能です。

図 3-2. リクエストの詳細ページ

DEM - アプリケーション機能拡張 30136 - Multi-Order Upgrade ステータス: 新規

初期レビュー 保存 エビ 詳細

解決案提供済み **アサイン** 詳細情報が必要 スケジュール 却下

すべて展開する | すべて折りたたむ

- サマリ

リクエスト番号: 30136	リクエスト者: Admin User
リクエストタイプ: DEM - アプリケーション機能拡張 <input type="button" value="変更"/>	作成日時: 2013/04/12
リクエストステータス: 新規	
ワークフロー: DEM - 機能拡張リクエスト プロセス	
アサイン先: <input type="text"/>	
アサイン先グループ: <input type="text"/>	
リクエスト者の部署: 発注エントリ	アプリケーション: その他
優先度: 通常	
説明: Multi-Order Upgrade	

+ 機能拡張の詳細

+ 分析

+ Demand Management SLA フィールド

+ Demand Management スケジューリング フィールド

+ メモ (メモが存在しません)

- ステータス

シーケンス	ワークフローステップ名	ステップステータス	完了者	日付
▶ 1	初期レビュー	初期レビュー		2013/04/12 13:19:39 JST
2	詳細情報の提供			
3	リクエスト者のサインオフ			
4	保留中			
5	ハイレベルのデザイン			
6	詳細情報の提供			
7	ハイレベルデザインのサインオフ			
8	優先順位付きキュー			
9	開発者のアサイン			
10	スクリーンショットの作成			
11	詳細デザイン			
12	詳細情報の提供			
13	テクニカルデザインのサインオフ			
14	初期開発			
15	パッケージの作成と待機			
16	次のシステムに対する承認			
18	クローズ (即時成功)			
19	クローズ (即時失敗)			


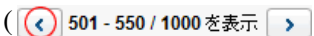
グラフィックビュー 承認の詳細 トランザクションの詳細

+ 参照

リクエストを開く

PPM Center でリクエストを開くにはいくつかの方法があります。次は、標準インターフェースで [リクエストの検索] ページからリクエストを開くための手順です。

リクエストを開くには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. **[検索]** メニューで、**[リクエスト]** をクリックします。
[リクエストの検索] ページが開きます。
3. 利用可能なフィールドに検索基準を入力して、**[検索]** をクリックします。
[リクエスト検索結果] に、検索基準に一致するリクエストがリスト表示されます。
4. リストされているリクエストをリクエスト番号でソートするには、**[リクエスト番号]** 列見出しをクリックします。
5. **[リクエスト番号]** 列で、開くリクエストの番号をクリックします。
6. 検索結果の次のページを表示するには、ページの右上隅にある右向き矢印 () をクリックします。
7. 検索結果の前のページを表示するには、ページの右上隅にある左向き矢印 () をクリックします。

リクエストの詳細ページ、上部セクション

リクエストの詳細ページの上部には、リクエスト番号、リクエストタイプ、および利用できるアクションが表示されます。上部セクションは、リクエストを作成して送信後に表示されます。リクエストの詳細ページのタイトルは<リクエストタイプ><リクエスト番号>-<リクエストの説明>(「DEM - アプリケーションバグ30182 - 新しい操作モジュールの使用後に保存した時にアプリケーションにエラーが発生」など)になります。



詳細ページの上部セクションからは、次のことを実行できます。

- 利用できるアクションの実行
- リクエスト詳細の印刷
- リクエストの保存
- リクエストのコピーの作成
- リクエストの削除
- ページ内のすべてのセクションの展開と折りたたみ
- **[ステータス]** セクションへのジャンプ

ツールバーに表示されるワークフローステップの数は、画面の解像度によって異なります。さらに多くのワークフローステップを表示するには、次を行います。



- コントロールパネルで、より高い画面解像度を選択する
- ブラウザを最大化する
- **[Ctrl]** キーと **[-]** キーを押してブラウザを縮小表示する

現在のワークフローステップで、リクエストに対してアクションを実行するのに必要なアクセス許可がある場合、ツールバーに実行可能なアクションがリスト表示されています。**[受け入れ]** や **[却下]** など、一部のアクションを実行すると、リクエストはワークフローの次のステップに進みます。**[リソースのアサイン]** や **[意思決定の委任]** などのアクションを選択すると、**[ワークフローアクション]** ページが開き、その他の選択肢が表示されます。あるアクションでは、オプションだったフィールドが必須になります。

リクエストに対して実行しているアクションでさらに情報の入力が必要な場合、リクエストの **[Lookahead]** ページが開きます。アクションを完了するために、赤色のアスタリスクが付いている必須フィールドに情報を入力します(すぐにすべての情報を入力できない場合、**[Lookahead]** ページの **[保存]** をクリックして、入力した情報を保存してください)。

参照リレーションシップを設定すると、参照したリクエストが完了するまで、リクエストが保留されます。参照リレーションシップでは、利用できるアクションに **[オーバーライド]** ボタンがあります。リクエストをワークフローの先に進めるには、**[オーバーライド]** をクリックします。リレーションシップをオーバーライドすると、変更が **[参照]** セクションに反映されます。

リクエストの詳細ページ、[ヘッダ] セクション

リクエストの詳細ページのヘッダセクションには、リクエストの作成者、リクエストの作成日時、リクエストタイプなどの一般的な情報が含まれています。ヘッダセクションは、リクエストの作成プロセスに含まれており、リクエストの解決までリクエストに付帯します。図 3-3 は、一般的なヘッダセクションです。

リクエストを作成するには、通常、ヘッダセクションのいくつかのフィールドに入力する必要があります。リクエストは高度な設定をすることも可能です。ヘッダセクション内のフィールドは、リクエストタイプによって異なります。

図 3-3. リクエストの詳細ページ、ヘッダセクション

The screenshot shows the 'Request Detail Page Header Section' in a CRM system. It is divided into two main sections: 'Summary' and 'Functional Extension Details'.

Summary Section:

- Request Number:** 30136
- Request Type:** DEM - アプリケーション機能拡張 (Action: 変更)
- Request Status:** 新規
- Workflow:** DEM - 機能拡張リクエスト プロセス
- Assign To:** (Field with user selection icon and 'ワークフロー' label)
- Assign To Group:** (Field with selection icon)
- Requester's Department:** 発注エントリ (Dropdown menu)
- Priority:** 通常 (Dropdown menu)
- Application:** その他 (Field with selection icon)
- Subject:** Multi-Order Upgrade
- Requester:** Admin User
- Created Date:** 2013/04/12

Functional Extension Details Section:

- Functional Extension Name:** Multi-Order Upgrade
- Detailed Description:** Multi-Order Upgrade
- New Functional Extension:** いいえ はい
- Requester:** 2013/04/12
- Requester's Location:** (Dropdown menu)
- Site:** (Dropdown menu)
- Business Instance:** CRM フェーズ 1 (Dropdown menu)

リクエストの詳細ページ、[詳細] セクション

リクエストの詳細ページの詳細セクション(図 3-4を参照)には、問題の説明、影響を受けるビジネス領域、リクエストの解決を含む、リクエストに固有の情報が含まれています。詳細セクションは、リクエストの作成プロセスに含まれており、リクエストの解決までリクエストに付帯します。リクエストを作成する場合、通常、詳細セクションのいくつかのフィールドに入力する必要があります。新しいリクエストの送信後、リクエストが解決プロセスを進むにつれ、フィールドを更新する必要があります。

詳細セクションには、[問題 / 解決] と [分析] などのサブセクションがあります。ただし、リクエストは高度な設定ができるため、表示されるセクションとコントロールは、リクエストタイプによって異なります。

図 3-4. リクエストの詳細ページ、詳細セクション

機能拡張の詳細

*機能拡張名:
Multi-Order Upgrade

*詳細な説明:
Multi-Order Upgrade

*新規機能拡張:
 はい いいえ

リクエスト者:
2013/04/12

リクエスト者の場所:

サイト:
[Dropdown]

ビジネス イニシアチブ:
CRM フェーズ 1

+ 分析

+ Demand Management SLA フィールド

+ Demand Management スケジューリング フィールド

[リクエストの詳細] ページ、新しいテーブルコンポーネント

PPM Center バージョン 9.12 から、新しいテーブルコンポーネントが導入されました。

新しいテーブルコンポーネントは、次のページでサポートされています。

- [新規リクエストの作成] ページ
- [リクエストの詳細] ページ
- 先取り ページ

サポートしている検証

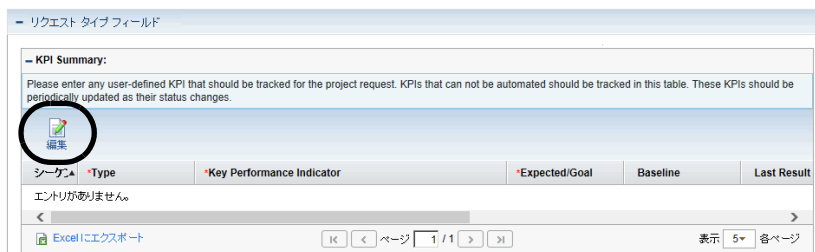
テーブルコンポーネントフィールドは、次のコンポーネントタイプの検証をサポートしています。

- テキストフィールド
- ドロップダウンリスト
- ラジオボタン (選択/非選択)
- オートコンプリートリスト
- テキスト領域
- 日付フィールド (短期、中期、長期)
- Webアドレス (URL)
- パスワードフィールド
- リンク

検証の詳細については、『コマンド、トークン、妥当性検証のガイドとリファレンス』を参照してください。

新しいテーブルコンポーネントレイアウト

新しいテーブルコンポーネントは、新規リクエスト作成後の、次の画面と同様になります。



[編集] をクリックして、リクエストページで直接編集モードに切り替え、行の追加、データ入力、その他の操作の実行などの編集を進めることができます。

図 3-5. 編集モードの新しいテーブルコンポーネント

– KPI Summary:
Please enter any user-defined KPI that should be tracked for the project request. KPIs that can not be automated should be tracked in this table. These KPIs should be periodically updated as their status changes.

表示 行の追加 行の削除 コピー 貼り付け 上へ移動 下へ移動

シーケンス	Type	Key Performance Indicator	Expected/Goal	Baseline	Last Result
1	Project		Expected/Goal		

Excelにエクスポート 1 / 1 ページ 表示 5 各ページ

図 3-6. 表示モードの新しいテーブルコンポーネント

– KPI Summary:
Please enter any user-defined KPI that should be tracked for the project request. KPIs that can not be automated should be tracked in this table. These KPIs should be periodically updated as their status changes.

編集

シーケンス	Type	Key Performance Indicator	Expected/Goal	Baseline	Last Result
1	Project	On-time delivery of weekly builds	100%	80%	80%
2	Quality	Regressions	0%	10%	10%
3	Quality	IPFF & NFT adoption	100%	50%	50%

Excelにエクスポート 1 / 1 ページ 表示 5 各ページ

新しいレイアウトはデフォルトで適用されています。旧レイアウトに戻すには、サーバ設定パラメータの `TABLE_COMP_USE_LEGACY` を `true` に設定します。詳細については、『コマンド、トークン、妥当性検証のガイドとリファレンス』を参照してください。

テーブルコンポーネントのリクエストページでの直接編集

テーブルコンポーネントは、次のページで直接編集できます。

- [新規リクエストの作成] ページ
- [リクエストの詳細] ページ
- リクエストの先取りページ

編集モードへの切り替え方法は、テーブルコンポーネントの **[編集]** をクリックするだけです。

[編集] ボタンは、リクエストまたはテーブルコンポーネントに編集アクセス許可があるユーザのみが使用できます。

アクセス許可の詳細については、『セキュリティモデルのガイドとリファレンス』を参照してください。

テーブルの列のサイズ変更

表示モードでも編集モードでも、テーブルの列の境界をドラッグするとテーブルの列の幅を変更できます。

テーブルの列の幅を変更すると、テーブルの幅も自動的にサイズ変更されます。

インライン行の追加

[行の追加] をクリックして、テーブルコンポーネントに直接新しい行を追加または挿入できます。

[行の追加] をクリックすると、現在選択している行の直下に新しい行が追加または挿入され、フォーカスが新しく追加した行に移動し、新しい行が自動的に選択された状態になります。

インライン行の削除

テーブルコンポーネントから直接行を削除できます。削除するには

1. 削除する行を選択するか、**[Shift]** キーまたは **[Ctrl]** キーを押しながら行をさらにクリックして複数の行を連続して、またはとびとびに選択します。
2. **[行の削除]** をクリックします。
確認を求める警告メッセージが表示されます。
3. 選択した行を削除する場合、**[OK]** をクリックします。
4. ページで **[ドラフトの保存]** または **[保存]** をクリックします。これで、選択した行のデータが削除されます。



[ドラフトの保存] ボタンは、サーバ設定パラメータ `ALLOW_SAVE_REQUEST_DRAFT` を `true` に設定している場合に使用できます。

行のコピーと貼り付け

選択した行をコピーまたは貼り付けできます。

テーブルコンポーネントの **[編集]** ボタンをクリックして編集モードを切り替えると、**[コピー]** と **[貼り付け]** ボタンが表示されます。

テーブルコンポーネントの行を選択すると、**[コピー]** ボタンが有効になり、**[コピー]** ボタンをクリックすると **[貼り付け]** ボタンが有効になります。

コピーと貼り付けは、次のように動作します。

- **[コピー]** ボタンをクリックすると、現在選択している行が、セルのデータやセルスタイル (編集可能、必須、表示と非表示、CSS スタイル、UI ルールで定義されたデフォルト値など) が記憶されます。**[貼り付け]** をクリックすると、別の行または別の複数行をコピーするまでは何度でも、テーブルコンポーネントの好きな場所に、選択した行をデータやセルスタイルも含めて貼り付けできます。
- 行を1つ選択した場合は、**[コピー]** および **[貼り付け]** を直接クリックすると、行が現在選択している行の直下に挿入されます。**[コピー]** を選択してから2番目の行を選択して **[貼り付け]** をクリックすると、その行は選択した2番目の行の直下に挿入されます。つまり、1行選択して、その行をテーブルの任意の行に挿入できます。
- 複数行を選択している場合 (複数の行は、**[Shift]** キーまたは **[Ctrl]** キーを押しながら行を選択します)、**[コピー]** および **[貼り付け]** をクリックすると、選択した行は常にテーブルコンポーネントの最後の行の下に連続して貼り付けられます。**[コピー]** をクリックして、テーブルコンポーネントの別の行を選択して **[貼り付け]** をクリックすると、前に選択した複数行が、現在選択している行の直下に連続して貼り付けられます。

行の上下の移動

単一行または複数の連続した行を選択して、テーブルコンポーネント内を上下に移動できます。

[上に移動] ボタンと **[下に移動]** ボタンは、**[編集]** をクリックして編集モードに切り替えるとテーブルコンポーネントに表示されます。

単一行を上または下に移動するには、目的の行を選択して **[上に移動]** または **[下に移動]** をクリックします。

複数の連続した行を上または下に移動するには、**[Shift]** キーを押しながらさらに行を選択し、**[上に移動]** または **[下に移動]** をクリックします。

行の上下への移動が終わったら、**[ドラフトの保存]** または **[保存]** をクリックして変更を保存します。

インライン行の編集

テーブルコンポーネントでサポートしている検証は、PPM Workbench で編集可能に設定できます。サポートされている検証のリストについては、「[サポートしている検証](#)」(62ページ) を参照してください。

PPM Workbench で編集可能に設定されている検証の場合、テーブルコンポーネントの対応するテーブルのセルが編集可能になり、直接編集できます。

テーブルコンポーネントの行をクリックすると、強調表示されて編集できるようになります。**Tab** キーを押すと、編集可能な行のセルを移動することができます。

テーブルコンポーネントのセルや行の編集が終わったら、ページ上の **[ドラフトの保存]** または **[保存]** をクリックして変更を保存します。

必須フィールド (赤い星が付いているフィールド) が空白になっている場合、**[ドラフトの保存]** または **[保存]** をクリックすると、必須フィールドに値を入力しないとテーブルコンポーネントが正常に保存されないことを知らせる警告が表示され、フォーカス可能なフィールドで1番初めの必須フィールドがフォーカスされます。

変更したテーブルコンポーネントを保存せずに現在のページを閉じようとした場合、確認を求める警告メッセージが表示されます。

テーブルコンポーネントの列の合計のリアルタイム表示

PPM Workbench で列の **[合計の表示]** 属性を **[はい]** に設定することで、数値列の合計を表示できます。

- **[合計]** フィールドは、すべての行が表示されている場合に最後の行としてテーブルコンポーネント内に表示されます。
 - **[合計]** 値はリアルタイムで再計算されて表示されます。

- 印刷ページに [合計] 行が表示されます。
- エクスポートされたExcelスプレッドシートに [合計] 行が表示されます。
- [合計] 行は、次の場合非表示になります。
 - テーブルの一部のエントリが表示されていない場合。
 - テーブルにエントリがない場合。
 - [合計の表示] 属性がある列がない場合。
- 合計トークンのサポート

たとえば、次のスクリーンショットの [合計工数] フィールドは合計トークン [REQD.T.CONTACT_INFO.TC.P.HOURS.TOTAL] を参照しています。

リクエスト タイプ フィールド

- Contact Info:

表示 行の追加 行の削除 エラー 貼り付け 上に移動 下に移動

Seq	Consultant	Available Date	Department	L2 Consultant	Hours
1	Mary Ann	January 26, 2013	Finance	Finn Gill	450
2	Francisco Leung	December 19, 2012	Manufacturing	Admin User	150
3	Christina Smith	December 10, 2012	Manufacturing	Finn Gill	200
4	Ray Robinson	December 1, 2012	Finance	Admin User	50
5	Jay Anderson	May 1, 2013	Manufacturing	Admin User	100

Excelにエクスポート

ページ 1 / 1

表示 5 各ページ

Total Effort

950

ルールウィンドウ

ルール名: Total

説明:

有効 はい いいえ

ルールイベント: フィールドの変更に対応

ルールタイプ: 詳細

依存関係

Contact Info:	フィールド名	条件
		任意の値を含む

結果

フィールド名	列	トークン
Total Effort	1	REQD.P.TOTAL_EFFORT
	2	REQD.VP.TOTAL_EFFORT

論理: SQL デフォルト

```
select [REQD.T.CONTACT_INFO.TC.P.HOURS.TOTAL],
[REQD.T.CONTACT_INFO.TC.P.HOURS.TOTAL] from dual
```

準備完了

その他の違い

リクエストページのあるフィールドが、テーブルコンポーネントの別のフィールドに依存している場合、UIルールがトリガされ、フォーカス(テーブルコンポーネントを囲む水色の単線の境界線で示されます)はテーブルコンポーネント外をクリックすると消滅します。旧テーブルコンポーネントレイアウトを使用したリクエストページでは、UIルールは、[完了]をクリックするとトリガされます。

次の例では、[合計工数]フィールドが[合計]トークン [REQD.T.CONTACT_INFO.TC.P.HOURS.TOTAL]を参照しています。

- テーブルコンポーネント内 (テーブルを囲む水色の境界線で示されます)にいる場合、[合計工数]フィールド値は更新されません。
- テーブルコンポーネント外をクリックすると、[合計工数]フィールド値は、トリガされたSQLルールの結果に従って更新されます。

テーブルコンポーネントでルールを使用する場合の注意点

新しいテーブルコンポーネントは、単純および高度なSQLルールと、次の2つのルールイベントでのUIルールの使用をサポートします。

- **作成時に適用**
- **フィールドの変更時に適用**

SQLルールおよびUIルールは、リクエストレベルでの使用と同じ方法で使用できます。高度なSQLルールおよびUIルールの設定方法の詳細については、『HP Demand Management 設定ガイド』を参照してください。

リクエストの詳細ページ、[メモ] セクション

リクエストの詳細ページの [メモ] セクションには、リクエストに関するメモや情報を入力および保存できるフィールドがあります。[メモ] セクションは、リクエストの作成プロセスに含まれており、リクエストの解決までリクエストに付帯します。

図 3-7 に、典型的な [メモ] セクションを示します。[メモ] セクションには、[メモの追加] セクションがあります。メモを1つ追加してリクエストを保存すると、[既存のメモ] セクションが表示されます。

図 3-7. リクエストの詳細ページ、[メモ] セクション

The screenshot displays the 'メモ' (Memo) section of a request detail page. It is divided into two main parts:

- メモの追加 (Add Memo):** A section with a label '保存時に追加されるメモ:' (Memo added at save time) and a large text input field.
- 既存のメモ (Existing Memos):** A section with a header bar containing filters: 'メモの作者:' (Memo author) set to 'すべて' (All), '変更済みフィールド:' (Modified fields) set to 'すべて' (All), and a checkbox for 'ユーザーメモのみ表示' (Show only user memos) which is currently unchecked.

Author	Content
Admin User (admin)	詳細なオブジェクト定義
April 3, 2013 11:26:46 PM MDT	ヘルプアイコンが表示されません。

リクエストの詳細ページ、[リソース]セクション

PPM Center 管理者がリクエストタイプのリソーストラッキングを有効にしている場合、リクエストの詳細ページの詳細セクションの下に [リソース] セクションが表示されます。このセクションの [リソース] 列には、これまでリクエストにアサインされたリソースがリスト表示されます。このセクションには、[スケジュールされた工数]、[実績工数]、[実際の開始日]、[実際の終了日] の列もあります (図 3-8 を参照)。

図 3-8. リクエストの詳細ページ、[リソース]セクション



リソース	実績工数 (時間)	実際の開始日	実際の終了日
× Cindy Ruth	0		
総合:	0		

+ リソースの追加

[リソース]セクションでは、リクエストに現在アサインされているリソースと以前にアサインされていたリソース、これらのリソースの実績工数とその作業日時を確認できます。[アサイン先] フィールドが変更 (リクエストが別のリソースにアサイン) されるたびに、そのリソースが自動的に [リソース] セクションに追加され、リクエストに計上されます。

[リソース]セクションを使用して実績を更新でき、必要なアクセス許可がある場合は、[スケジュールされた工数 (時間)] フィールドを使用してリストされているリソースのアサインを変更できます。リクエストにアサインされるリソースの割り当ての作成と変更は、通常、マネージャレベルのリソースが実行します。リクエストの作業をするほかのリソースは、通常、計画変更を行うアクセス許可がないため、[スケジュールされた工数 (時間)] フィールドを変更できません。

管理者がリクエストタイプを HP Time Management を使用するよう設定した場合、リソースは、タイムシートを送信し、このリクエストに対する作業時間を記録することになります。この場合、リソースの [スケジュールされた工数] フィールドの値が、そのリソースのタイムシートの [予定されている時間数] フィールドに表示されます。

さらに、リソースがタイムシートを送信した後は、リクエスト上で直接 [実績工数]、[実際の開始日]、[実際の終了日] の各フィールドを編集できなくなります。これらの値は読み取り専用になり、リクエストのリソースによって送信されたタイムシートからロールアップされます。

管理者から [リソース] セクションを管理する権限を与えられている場合、[リソースの追加] ボタンを使用して、ユーザを選択しリストに追加できます。ここに表示される情報は、このセクションに対して加えられた変更、HP Time Management のタイムシート、あるいはリソースへの自動変更を設定するために管理者が設定した高度なUIルールが反映されている可能性があります。

リソースをトラッキングするように設定されているだけでなく、リクエストに [作業項目フィールド] セクションも含まれている場合、これらの作業項目フィールドの一部はリソースレベルの情報のロールアップになります。このため、たとえば、[作業項目フィールド] セクションの [スケジュールされた工数] 列の情報は、リクエストの各リソースにスケジュールされた工数の合計となります。[実績工数]、[実際の開始日]、[実際の終了日] の各フィールドもロールアップになります。

リクエストの詳細ページ、[ステータス] セクション

リクエストの詳細ページの [ステータス] セクションには、リクエストに関連付けられているワークフローステップが階層的順序でリスト表示されます (図 3-9 を参照)。ワークフローステップに対してアクションが実行されている場合、ワークフローステップのステータスとステップの完了者もリスト表示されます。アクティブなワークフローステップは強調表示されます。

図 3-9. ステータステーブルでのアクティブなワークフローステップの階層

シーケンス	ワークフローステップ名	ステップステータス	完了者	日付
1	Approve (One User)	Approved	Admin User	September 4, 2012 12:43:10 PM CST
▶ 2	Serial_Sub_Sub_WF	Serial_Sub_Sub_WF (In Progress)		September 4, 2012 12:43:11 PM CST
▶ 2.1	⇒ PPM - Plan	PPM - Plan (In Progress)		September 4, 2012 12:43:11 PM CST
2.1.1	Allocate Resources	Immediate	Admin User	September 4, 2012 12:43:19 PM CST
▶ 2.1.2	Create Detailed Project Definition	Create Detailed Project Definition		September 4, 2012 12:43:19 PM CST
2.1.3	Project Plan Approval			
2.1.4	Business Readiness Sign-Off			
2.1.5	Return From Subworkflow			
2.2	Close (Manual success)			
2.3	Approve (One User)			
2.4	Return From Subworkflow			
3	Close (Immediate success)			

一部のワークフローには、サブワークフローがあります。サブワークフローステップは、ほかのワークフローステップとともに順に表示されます。サブワークフローステップは、ワークフローレベルに対応して、追加の小数点以下の位を持つ番号が付けられます (たとえば、3.1、3.2、3.3)。

ワークフローステップのリストに加えて、[ステータス] セクション (図 3-10) には、次のリンクも含まれています。

- [グラフィックビュー] には、リクエストに関連付けられているワークフローが表示されます。
- [承認の詳細] には、承認されたワークフローステップと完了したワークフローステップの詳細ビューが表示されます。
- [トランザクションの詳細] には、完了した各ワークフローステップの詳細情報が表示されます。

図 3-10. リクエストの詳細ページ、[ステータス] セクション

- ステータス				
シーケンス	ワークフローステップ名	ステップステータス	完了者	日付
1	Identify and Document Change Request	Complete	Joseph Banks	February 15, 2012 07:43:29 AM MST
3	Create Impact Analysis	Complete	Joseph Banks	February 15, 2012 07:43:36 AM MST
4	Submit Recommendation	Submitted	Joseph Banks	February 15, 2012 07:44:08 AM MST
5	Escalate?	はい	Joseph Banks	February 15, 2012 07:44:20 AM MST
6	Review Level 2 Change Request	承認済み	Joseph Banks	February 15, 2012 07:44:58 AM MST
7	Create/Update Impact Analysis	Complete	Joseph Banks	February 15, 2012 07:45:03 AM MST
▶ 8	Submit Recommendation	Submit Recommendation		February 15, 2012 07:45:03 AM MST
9	Escalate?			
10	Review Level 1 Request			
11	Create/Update Impact Analysis			
12	Determine Final Action			
13	Approve Request			
14	On Hold			
15	Close (Immediate success)			
16	Close (Immediate failure)			

[グラフィックビュー](#)
[承認の詳細](#)
[トランザクションの詳細](#)

リクエストの詳細ページ、[グラフィックビュー]

リクエストの詳細ページの [グラフィックビュー] リンクをクリックすると、[グラフィカルワークフロー] ウィンドウが開きます。このウィンドウには、リクエストに適用されるワークフローがグラフ表示されています。ワークフローは、どのワークフローステップを経過してきたのか、現在のワークフローステップがどのワークフローステップであるかを示します。

リクエストのグラフィックワークフローを表示するには、次の手順を実行します。

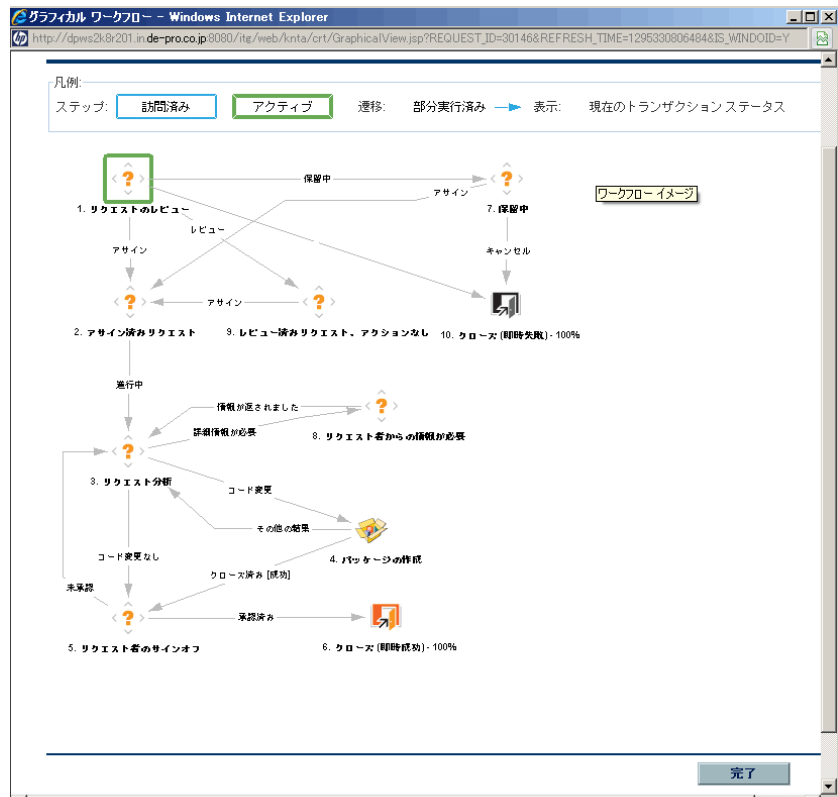
1. 標準インターフェースからリクエストを開きます。



リクエストを開く方法については、「[リクエストを開く](#)」(57ページ)を参照してください。

2. 詳細ページの[**ジャンプ先**] ナビゲーションパネルから [**ステータス**] をクリックします。
3. [**ステータス**] セクションの下部にある、[**グラフィックビュー**] リンクをクリックします。

[グラフィカルワークフロー] ウィンドウが開きます。



[**凡例**] セクションには、ワークフローステップと遷移を図示する色と記号のキーが用意されています。ワークフローステップの概要説明を表示するには、カーソルをステップに移動してツールヒントテキストを表示します。

管理者は、[**現在の達成率 (%)**] の値を個々のワークフローステップにアサインできます。リクエストがワークフローに沿って進むにつれ、それぞれのステップに設定されている値に従って達成率 (%) が更新されます。

リクエストの詳細ページ、[承認の詳細]

リクエストの[承認の詳細]ウィンドウには、承認されたアクティブなワークフローステップと完了したワークフローステップの詳細ビューが表示されます。

リクエストの承認の詳細を表示するには、次の手順を実行します。

1. 標準インターフェースからリクエストを開きます。



リクエストを開く方法については、「[リクエストを開く](#)」(57ページ)を参照してください。

2. 詳細ページの[[ジャンプ先](#)]ナビゲーションパネルから[[ステータス](#)]をクリックします。
3. [ステータス]セクションの下部にある、[承認の詳細]をクリックします。
[承認の詳細]ウィンドウが開きます。

承認の詳細 - DEM - Application Bug #30871

リクエスト ステータス: 保留中

説明: Page Navigation error

アクティブなワークフローステップ

6 - On Hold Eligible - 次の日以降: April 16, 2009; 1人のユーザのみが決定する必要があります (期限なし)

意思決定結果	承認者	意思決定日
[意志決定なし]	セキュリティグループ: ITG Administrator	

完了したワークフロー ステップ

1 - Priority Router High; 1人のみのユーザが決定する必要があります

意思決定結果	承認者	意思決定日
High	Karen O'Keefe	April 16, 2009 04:16:23 AM MDT

3 - Initial Review Schedule Demand; 1人のみのユーザが決定する必要があります

意思決定結果	承認者	意思決定日
Schedule Demand	Karen O'Keefe	April 16, 2009 04:21:18 AM MDT

完了

[承認者]列には、ユーザがワークフローステップに対してアクションを実行できるセキュリティグループ(ワークフローが完了している場合は、ユーザがワークフローステップに対してアクションを実行したセキュリティグループ)の名前がリスト表示されます。[承認の詳細]ウィンドウには、ワークフローステップを完了するのに必要な条件(たとえば、「すべてのユーザが決定する必要があります」)も表示されます。

ワークフローステップの設定に応じて、[承認者]列には、セキュリティグループ名、または個々のユーザ名がリストされます。リストされているセキュリティグループに所属するユーザ名を表示するには、セキュリティグループ名をクリックします。

ワークフロー意思決定ステップでは、結果が異なる可能性もあります。[意思決定結果] 列には、ワークフローステップの実際の結果が表示されます。[意思決定日] 列には、意思決定がなされた日時 (すべての必要な承認者と意志決定者が入力を送信した後) が表示されます。

リクエストの詳細ページ、[トランザクションの詳細]

[トランザクションの詳細] ウィンドウには、完了した各ワークフローステップのトランザクションに関する情報がリスト表示されます。

リクエストのトランザクションの詳細を表示するには、次の手順を実行します。

1. 標準インターフェースからリクエストを開きます。



リクエストを開く方法については、「[リクエストを開く](#)」(57ページ) を参照してください。

2. 詳細ページの[ジャンプ先] ナビゲーションパネルから [ステータス] をクリックします。
3. [ステータス] セクションの下部にある [トランザクションの詳細] をクリックします。

[トランザクションの詳細] ウィンドウが開きます。

トランザクションの詳細 - DEM - Application Bug #30871

日付	ユーザ名	ステップ	ワークフロー	ステップ名	ステップ ステータス	結果	エラー	エラー メッセージ	メモ
April 16, 2009 04:16:24 AM MDT	kokeefe	3		Initial Review	合格				
April 16, 2009 04:21:18 AM MDT	kokeefe	3		Initial Review	完了	Schedule			
April 16, 2009 04:21:18 AM MDT	kokeefe	6		On Hold	合格				

完了

リクエストの詳細ページ、[実行ログ]

[実行ログ] ページを開くと、実行ワークフローステップに関連する詳細を表示できます。

ワークフローステップのリクエストの [実行ログ] を表示するには、次の手順を実行します。

1. 標準インターフェースから、関心のあるリクエストを開きます。



リクエストを開く方法については、「[リクエストを開く](#)」(57ページ) を参照してください。

2. 詳細ページの[ジャンプ先] ナビゲーションパネルから [ステータス] をクリックします。
3. 実行ステップの[ステップステータス]列で、[log] をクリックします。
4. [実行ログ] ページが開き、リクエスト実行の詳細が表示されます。

リクエストの詳細ページ、[参照] セクション

リクエストの詳細ページの [参照] セクションには、リクエストに関連するその他の情報が含まれています。たとえば、URL をリクエストに追加したり、あるいはリクエストから古くなったドキュメントを削除することができます。[参照] セクションは、リクエストの作成プロセスに含まれており、リクエストの解決まで付帯します。参照をリクエストに追加、削除できます。

参照をリクエストに追加するには、[参照の追加] サブセクションを使用します。保存される参照は、参照タイプ別に整理されます。たとえば、保存されるすべての参照パッケージは、[パッケージ] セクションに保存されます。

リクエストと参照エンティティの間に依存リレーションシップを作成できる場合もあります。一例として、パッケージをリクエストの先行タスクと指定することもできます。この場合、パッケージがクローズするまで、リクエストは次のワークフローステップに進めません。参照、その定義、および指定可能な依存リレーションシップのリストについては、77ページの表 3-1を参照してください。

図 3-11. リクエストの詳細ページの [参照] セクション

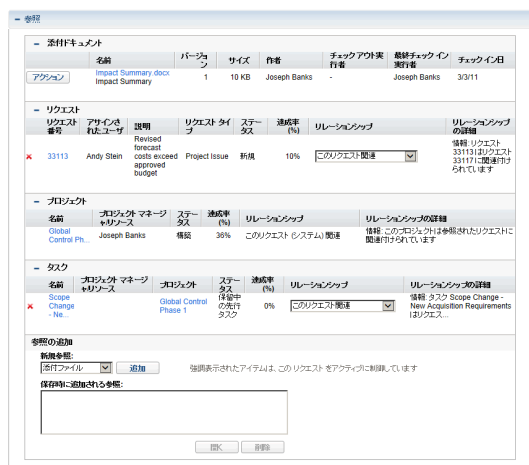


表 3-1. 参照とリレーションシップ(1/3 ページ)

参照	参照説明	指定可能なリレーションシップ	リレーションシップ説明
添付ファイル	ファイルをローカルマシンから現在のリクエストに添付します。添付ファイルはサーバにコピーされます。	標準の添付ファイルアクション	(情報) 添付ファイルはこのリクエストに関連付けられています。
パッケージ (既存)	既存パッケージを参照します。	このリクエストの下位	(情報) 選択したパッケージはリクエストの下位です。
		このリクエスト関連	(情報) 選択したパッケージはリクエストに関連付けられています。
		先行タスク	(ブロックしています) 参照されたパッケージをクローズするまで、リクエストに対するアクションは実行できません。
		後続タスク	(ブロックしています) リクエストをクローズするまで、参照されたパッケージに対するアクションは実行できません。
パッケージ (新規)	リクエストから新規パッケージも作成できます。ワークフローの一部として設定した場合、ワークフローステップからパッケージを作成できます。この場合、そのパッケージに対する参照が自動的に生成され、リクエストとパッケージ間に双方向リンクが確立されます。	このリクエストの下位	(情報) 選択したパッケージはリクエストの下位です。
		このリクエスト関連	(情報) 選択したパッケージはリクエストに関連付けられています。
		先行タスク	(ブロックしています) 参照されたパッケージをクローズするまで、リクエストに対するアクションは実行できません。
		後続タスク	(ブロックしています) リクエストをクローズするまで、参照されたパッケージに対するアクションは実行できません。

表 3-1. 参照とリレーションシップ(2/3ページ)

参照	参照説明	指定可能なリレーションシップ	リレーションシップ説明
プロジェクト	HP Project Managementのプロジェクトを参照します。	このリクエストに関連	(情報) 選択したプロジェクトはこのリクエストに関連付けられています。
リリース	HP Deployment Managementのリリースを参照します。	このパッケージを含みます	(情報) リクエストは選択したリリースに含まれています。
リクエスト (既存)	既存リクエストを参照します。	重複リクエスト	(情報) 参照されたリクエストはリクエストの重複です。
		重複リクエストのオリジナル	(情報) 参照されたリクエストは2つの重複リクエストのオリジナルです。
		このリクエストの上位	(情報) 参照されたリクエストはリクエストの上位です。
		このリクエストの下位	(情報) 参照されたリクエストはリクエストの下位です。
		このリクエストに関連	(情報) 参照されたリクエストはこのリクエストに関連付けられています。
		先行タスク	(ブロックしています) 参照されたリクエストをクローズするまで、このリクエストに対するアクションは実行できません。
		後続タスク	(ブロックしています) このリクエストをクローズするまで、参照されたリクエストに対するアクションは実行できません。

表 3-1. 参照とリレーションシップ(3/3ページ)

参照	参照説明	指定可能なリレーションシップ	リレーションシップ説明
リクエスト (新規)	既存リクエストから新規リクエストを作成できます。また、ワークフローの一部として設定した場合、リクエストからリクエストを作成できます。そのリクエストに対する参照が自動的に生成され、リクエスト間に双方向リンクが確立されます。	重複リクエスト	(情報) 参照されたリクエストはリクエストの重複です。
		重複リクエストのオリジナル	(情報) 参照されたリクエストは2つの重複リクエストのオリジナルです。
		このリクエストの上位	(情報) 参照されたリクエストはリクエストの上位です。
		このリクエストの下位	(情報) 参照されたリクエストはリクエストの下位です。
		このリクエスト関連	(情報) 参照されたリクエストはこのリクエストに関連付けられています。
		先行タスク	(ブロックしています) 参照されたリクエストをクローズするまで、このリクエストに対するアクションは実行できません。
		後続タスク	(ブロックしています) このリクエストをクローズするまで、参照されたリクエストに対するアクションは実行できません。
タスク	HP Project Managementのタスクを参照します。	このリクエスト関連	(情報) 参照されたタスクはこのリクエストに関連付けられています。
URL	Webアドレスを参照します。このURLにあるドキュメントはMIME形式である必要があります。	標準のURLインストラクション	(情報) URLはこのリクエストに関連付けられています。

先行タスクリレーションシップ

先行タスクリレーションシップは、参照エンティティがクローズするまで、あるエンティティに対してアクションを実行できないことを意味しています。たとえば、参照パッケージをクローズするまで、リクエストに対するアクションは実行できません。パッケージをクローズすると、ユーザは再度リクエストに対してアクションを実行できます(ユーザがほかのリクエストフィールドの編集を禁止されることはありません)。

後続タスクリレーションシップ

後続タスクリレーションシップは、参照エンティティがクローズするまで、そのエンティティに対してアクションを実行できないことを意味しています。たとえば、リクエストをクローズするまで、ユーザは参照パッケージに対してアクションを実行できません。パッケージのステータスは、**[保留中のリクエスト]**になります。リクエストをクローズすると、ユーザは再度パッケージに対してアクションを実行できます(ユーザがほかのタスクフィールドの変更を禁止されることはありません)。

終了/終了先行タスクリレーションシップ

終了/終了またはFF先行タスクリレーションシップは、2つのエンティティが同時に完了することを意味しています。たとえば、参照パッケージのステータスは、オリジナルのリクエストがクローズされるまで、**[完了]**になることはありません。オリジナルのリクエストで作業しているリソースが作業を終了し、ステータスが**[完了済み]**に設定されると(**[達成率 (%)]**は**[100%]**に設定されると)、参照パッケージのステータスは、**[完了 (保留中のリクエスト)]**になります。リクエストがクローズされると、参照パッケージは**[完了済み]**に設定されます(ユーザがほかのリクエストフィールドの編集を禁止されることはありません)。

第4章 リクエストの処理と管理

リクエストの処理と管理の概要

新規リクエストは、HP Demand Management で送信後に、処理および管理ができます。処理とは、リクエストを更新し、アサインされたワークフローステップに従って進ませることです。管理とは、リクエストの印刷や削除などのアクションを実行することです。

注意が必要なリクエストを見つけるには、次のいずれかを実行します。

- **ポートレットを表示します。** HP Demand Management リクエストポートレットをカスタマイズして、特にユーザ自身にアサインされたリクエストのみを表示します。
- **検索を実行します。** [リクエストの検索] ページを使用します。
- **通知を受信します。** Demand Management では、リクエストタイプまたはワークフローから通知させることができます。リクエストがワークフローステップに従って進むにつれ、電子メールを送信して保留中のアクションを通知できます。通知には、クリックすると参照されたリクエストが開くリンクを含めることもできます。

PPM Center にログオンすると、参照されたリクエストが開きます。ログオンしない場合、ログオンページが開きます。ログオンすると、参照されたリクエストが開きます。

次の場合に電子メールで通知を送信するようにリクエストタイプを設定できます。

- リクエストが特定のワークフローステップまで移動
- 特定のフィールドの値を変更

リクエストの検索

この項では、HP Demand Managementでのリクエストの検索方法に関する情報について説明します。次の方法でリクエストを検索できます：

- 基本検索を実行する
- 詳細検索を実行して、リクエストタイプ固有のフィールドに基づいてリクエストを検索する
- クエリビルダを使用する
- リクエストブラウザで検索する

基本リクエスト検索の実行

リクエスト番号に基づいて基本リクエスト検索を実行するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. **[検索]**メニューで、**[リクエスト]**をクリックします。
[リクエストの検索]ページが開きます。
3. 次のいずれかを実行します。
4. **[詳細を表示するリクエスト番号]**フィールドに、リクエストの番号を入力します。
5. **[実行]**をクリックします。

リクエストを検索しすべてのリクエストをリスト表示するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. **[検索]**メニューで、**[リクエスト]**をクリックします。
[リクエストの検索]ページが開きます。
3. **[検索]**をクリックします。

1つまたは複数のリクエストフィールドの値に基づいてリクエストを検索するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログインします。
2. **[検索]**メニューで、**[リクエスト]**をクリックします。
[リクエストの検索]ページが開きます。
3. **[表示するリクエストの検索]**セクションで、1つまたは複数の有効なフィールドに値を入力します。
4. **[列の選択]**セクションで、次の手順を実行します。
 - a. **[利用できる列]**リストから、検索結果に表示する列を選択します。
 - b. 右向き矢印を使用して、選択した列見出しを**[選択した列]**リストに移動します。
 - c. 上向き矢印と下向き矢印を使用して、検索結果の列の順序を事前に調整します。
5. これらの検索プリファレンスを保存するには、次の手順を実行します。
 - a. **[次の名前での検索を保存]**フィールドに、検索の名前を入力します。
 - b. **[保存]**をクリックします。
6. **[検索]**をクリックします。

PPM Centerでページを移動すると、表示したページがトラッキングされます。メニューバーの下部でこれらのページへのリンクを確認できます。



hp Project and Portfolio Management Center

ダッシュボード ▾ 開く ▾ 検索 ▾ 作成 ▾ マイリンク ▾ 履歴 ▾ ★

ダッシュボード > Key Status Information > リクエストの検索

リクエストの検索

詳細を表示するリクエスト番号:

前のページに戻るには、対応するリンクをクリックします。

詳細リクエスト検索の実行

詳細検索を実行して、リクエストタイプ固有のフィールドに基づいてリクエストを検索できます。

詳細リクエスト検索を実行するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. **[検索]** メニューで、**[リクエスト]** をクリックします。
[リクエストの検索] ページが開きます。
3. **[表示するリクエストの検索]** セクションで、**[リクエストタイプ]** オートコンプリートを使用して、検索に含める1つまたは複数のリクエストタイプを選択します。
これで、**[詳細検索]** ボタンが有効になります。
4. **[詳細検索]** をクリックします。
[検索] ページに、選択したリクエストタイプのフィールドが表示されます。
5. 任意のリクエストタイプフィールドに入力します。
6. 検索プリファレンスを保存するには、次の手順を実行します。
 - a. **[次の名前での検索を保存]** フィールドに、詳細検索の名前を入力します。
 - b. **[保存]** をクリックします。
7. **[検索]** をクリックします。

PPM Dashboard でページを移動すると、表示したページがトラッキングされます。PPM Dashboard の上部でこれらのページへのリンクを確認できます。



hp Project and Portfolio Management Center

ダッシュボード ▼ 開く ▼ 検索 ▼ 作成 ▼ マイリンク ▼ 履歴 ▼ ★

ダッシュボード > Key Status Information > リクエストの検索

リクエストの検索

詳細を表示するリクエスト番号:

[検索結果] ページなどの前のページに戻るには、このページの上部にある対応するリンクをクリックします。

クエリビルダを使用したリクエストの検索

リクエストを検索するには、一般的なリクエストフィールドに基づく単純検索、および1つまたは複数のリクエストのリクエストフィールドに基づくより詳細な検索を実行できます。管理者から「Demand Management: アクセスリクエストクエリビルダ」アクセス許可をアサインされている場合、リクエストクエリビルダを使用して、リクエストタイプ固有のフィールドのカスタム検索クエリを作成することもできます。クエリビルダには、HP Demand Managementの[リクエストの検索]ページからアクセスします。

リクエストクエリのコンポーネント

クエリビルダを使用してリクエストクエリを構築するには、複数の検索用語を論理演算子で結合し、比較演算子を使用して検索用語を定義できます。検索用語のフォームは次のとおりです。

<フィールド名> <比較演算子> <値>

ここで

<フィールド名> リクエスト上のフィールドを表します。

<比較演算子> 表 4-1にリストされている演算子の1つを表します。

<値> フィールドが受け入れられる1つまたは複数の値を表します。

リクエストクエリを構築するための比較演算子

表 4-1に、HP Demand Managementでリクエストクエリを構築するためにサポートされている比較演算子をリストします。[説明]列の「左側の値」とは、検索用語内の<フィールド名>で特定するリクエストフィールド(リクエストオブジェクト内)の値を指します。「右側の値」とは、検索用語(クエリビルダ内)に指定する<値>を指します。

表 4-1. クエリを構築するためにサポートされている演算子(1/2ページ)

演算子	記号	値	説明
次の値より大きい	>	数字 / 日付	左側の値が右側の値より大きいです。
次の値より小さい	<	数字 / 日付	左側の値が右側の値より小さいです。
次の値以上	>=	数字 / 日付	左側の値が右側の値以上です。
次の値以下	<=	数字 / 日付	左側の値が右側の値以下です。
次の値と等しい	=	数字 / 日付	左側の値が右側の値と等しいです。
		文字列	左側の値が右側の値と同じです (大文字と小文字を区別しない一致)。
次の値と等しくない	!=	数字 / 日付	左側の値が右側の値と等しくないです。
		文字列	左側の値が右側の値と同じです (大文字と小文字を区別しない一致)。
In	IN	数字 / 日付	左側の値が右側にリストされているいずれかの値に一致します。
		文字列	左側の値が右側にリストされているいずれかの値に一致します。
Not in	NOT IN	数字 / 日付	左側の値が右側にリストされているいずれかの値に一致しません。
		文字列	左側の値が右側にリストされているいずれかの値に一致しません。
含む	含む	文字列	右側の文字列は左側の文字列のサブ文字列です。

表 4-1. クエリを構築するためにサポートされている演算子(2/2ページ)

演算子	記号	値	説明
含まない	含まない	文字列	右側の文字列は左側の文字列のサブ文字列ではありません。
前方一致	startswith	文字列	右側の文字列は左側の文字列の先頭です(大文字と小文字を区別しない)。
後方一致	endswith	文字列	右側の文字列は左側の文字列の末尾です(大文字と小文字を区別しない)。

リクエストクエリを構築するための論理演算子

クエリを構築するための論理演算子は、AND、OR、およびNOTです。

これらの演算子は次のように使用できます。

- AND/ORを使用して、複合クエリ内の複数の検索用語をリンクします。
- 任意の検索用語の前にNOT演算子を付けます。例:

```
Priority='High' AND Status='InProgress' AND NOT AssignedTo
IN {'johndoe','janedoe'}
```

- 論理演算子が、既存のエントリの上下どちらに追加されるかによって新しいエントリの先頭または末尾に付加されます。

クエリ内の検索用語のグループ化

1つまたは複数の検索用語を括弧でグループ化し、複雑なクエリを作成できます。例:

```
(StartedOn > 6/6/09 AND StartedOn < 6/13/09) OR (StartedOn >
6/13/09 AND StartedOn < 6/20/09)
```

リクエストブラウザを使用したリクエストの検索

リクエストを参照するには、次の手順を実行します。

1. **[開く]** メニューで、**[Demand Management]** > **[リクエストブラウザ]** > **[リクエストの参照]** をクリックします。

[リクエストの参照] ページが開きます。

2. **[リクエストタイプ]** フィールドに、検索しているリクエストのリクエストタイプを入力します。



複数のリクエストタイプを選択した場合、[リクエストの参照] ページでは、選択したすべてのリクエストタイプに共通のフィールドのみ有効になります。

3. 検索の基となるすべてのフィールドの情報を入力します。



クエリビルダを使用して、参照するリクエストを検索することもできます。この方法については、**「クエリビルダを使用したリクエストの検索」(85ページ)** を参照してください。

4. **[リクエストリストの列の選択]** セクションで、参照するリクエストページに含める利用できる列を選択します。

5. **[選択した列]** フィールドの右側にある上矢印と下矢印を使用して、列の表示順序を変更します。

6. **[リクエストブラウザツリーでグループ化するフィールドを選択]** セクションで、リクエストブラウザツリーでグループ化する最大5つのフィールドを選択します。



少なくとも1つのフィールドを選択する必要があります。

7. **[選択したフィールド]** フィールドの右側にある上矢印と下矢印を使用して、フィールドの表示順序を変更します。

8. この検索を保存するには、**[次の名前でのこのプリファレンスセットを保存]** フィールドにその名前を入力します。

9. **[参照]** をクリックします。

リクエスト検索結果テーブルでのアクティブなワークフローステップの表示

[リクエスト検索結果] テーブルに、リクエストのアクティブなワークフローステップが階層順で表示されます。この情報は、[**アクティブなワークフローステップ**] 列に表示されます (図 4-1 を参照)。

図 4-1. [リクエスト検索結果] テーブルのアクティブなワークフローステップの階層順表示

リクエスト番号	リクエストタイプ	説明	アクティブなワークフローステップ	ステータス	アサイン先	作成者
<input type="checkbox"/> 30186	RT For 39581		sub-WFAApprove (One User);PPM - P	保留中		Admin User
<input type="checkbox"/> 30188	RT For 39581		sub-WFABTO Review	保留中		Admin User
<input type="checkbox"/> 30189	RT For 39581		sub-WFAsub-sub-WFAQuality Center	保留中		Admin User
<input type="checkbox"/> 30190	RT For 39581		Serial_Sub_Sub_WF;PPM - Plan;Crea	保留中		Admin User
<input type="checkbox"/> 30191	RT For 39581		Serial_Sub_Sub_WF;PPM - Plan;Proje	新規		Admin User
<input type="checkbox"/> 30192	RT For 39581		Serial_Sub_Sub_WF;PPM - Plan;Alloc	新規		Admin User
<input type="checkbox"/> 30193	RT For 39581		sub-WFAsub-sub-WFAQuality Center	新規		Admin User

[**アクティブなワークフローステップ**] 列には、最上層のワークフローステップが最初に表示され、次に下位レベルのワークフローステップが表示されます。

たとえば、リクエスト30190の場合、[**アクティブなワークフローステップ**] 列の値は次のようになります。

Serial_Sub_Sub_WF; PPM - 計画; 詳細なプロジェクト定義の作成

これら3つのワークフローステップの順番は、PPM - 計画が第2レベルのワークフローステップになり、第1のワークフローステップSerial_Sub_Sub_WFの下位になります。同様に、詳細なプロジェクト定義は第3レベルのワークフローステップになり、第2レベルのワークフローステップPPM - 計画の下位になります。ワークフローステップの階層も、リクエストの詳細ページの[**ステータス**]セクション(「リクエストの詳細ページ、[ステータス]セクション」(71ページ)を参照)に表示されます。

リクエストを開いて更新

必要なセキュリティアクセス許可がある場合、HP Demand Management リクエストを開いて更新できます。この中には、次の操作が含まれます。

- リクエストの検索
- リクエストを開く
- リクエストフィールドの情報の変更
- リクエストに対するメモまたは参照の追加
- 利用できるアクションの実行

次の項では、これらのタスクについて説明します。



PPM Center インスタンスが複数の言語をサポートしている場合、リクエストタイプを定義した言語でのみ変更できます。現在のセッション言語と別の言語で定義されていたため、リクエストタイプを編集できない場合は、PPM Center をログアウトしてから、再度ログオンし、今回はセッション言語としてリクエストタイプの定義言語を選択します。詳細については、『Multilingual User Interface Guide』を参照してください。

ポートレットからリクエストを開く

HP Demand Management リクエストポートレットには、リクエストの詳細ページへのリンクが含まれています。リクエストに関連付けられている詳細ページを開くには、HP Demand Management ポートレットで、**[リクエスト番号]** リンクをクリックします。



[リクエストリスト] ポートレットは、PFM - 資産、PFM - 提案、PFM - プロジェクト、プロジェクト詳細などのリクエストタイプのスタッフィングプロファイル、財務ベネフィット、参照ドキュメントの詳細ビューへのリンクも表示できます。このドリルダウン機能は、セキュリティベースです。エンティティに対する「表示」、「編集」、「すべて表示」、「すべて編集」のアクセス権限がない場合、関連付けられている値はリンクとして表示されません。

HP Demand Management ポートレットについては、「[ポートレットを使用したリクエストの管理](#)」(114 ページ) および「[\[デマンドマネージャ\] ページ上のポートレット](#)」(125 ページ) を参照してください。

電子メール通知からリクエストを開く

一部のワークフローステップは、アクティブ化時に電子メールで通知を送信するように設定されています。ほとんどの電子メールでの通知には、リクエストへのリンクが含まれています。

関連付けられているリクエストを開くには、そのリンクをクリックします。PPM Center にログオンすると、参照されたリクエストが開きます。PPM Center にログオンしていない場合、**[PPM Center ログオン]** ページが開きます。ログオンすると、参照されたリクエストが開きます。

メニューバーからリクエストを開く

メニューバーからリクエストを開くには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. **[検索]** メニューで、**[リクエスト]** を選択します。
3. **[リクエストの検索]** ページで検索基準を入力して、**[検索]** をクリックします。
4. **[リクエスト検索結果]** ページの **[リクエスト番号]** 列で、開くリクエストに対応した番号をクリックします。

リクエストの詳細ページが開きます。

基本的なリクエスト編集の実行

基本的なリクエスト編集を実行するには、次の手順を実行します。



PPM Center インスタンスが複数の言語をサポートしている場合、リクエストタイプを最初に定義した言語でのみ変更できます。現在のセッション言語と別の言語で定義されていたため、リクエストタイプを編集できない場合は、PPM Center をログアウトしてから、再度ログオンし、今回はセッション言語としてリクエストタイプの定義言語を選択します。詳細については、『Multilingual User Interface Guide』を参照してください。

1. 編集するリクエストを開きます。

ツールバーには、実行する権限があるアクションのボタンが表示されます。



ワークフローの最初のステップとして即時実行ワークフローステップが設定されている場合、実行が進行中であること、または完了したことを示すインジケータはありません。このワークフローを使用してリクエストを送信した後に、ステップがこの実行を完了するまで待機することをお勧めします。リクエストを開いたときにそれが更新されていない場合、ステップで実行が完了した後にリクエスト詳細ページを更新するか再度開いてください。

2. このリクエストを操作するには、ツールバーからボタンをクリックします。

ツールバーに表示されるワークフローステップの数は、画面の解像度によって異なります。さらに多くのワークフローステップを表示するには、次を行います。



- コントロールパネルで、より高い画面解像度を選択する
- ブラウザを最大化する
- [Ctrl] キーと [-] キーを押してブラウザを縮小表示する

[受け入れ] や [却下] など、一部のアクションはリクエストをワークフローの次のステップに移動し、追加入力は不要です。[リソースのアサイン] や [意思決定の委任] などのほかのアクションでは、追加情報を入力する必要があります。

リクエストに対して実行しているアクションでさらに情報の入力が必要な場合、リクエストの [Lookahead] ページが開きます。アクションを完了するために、赤色のアスタリスクが付いている必須フィールドに情報を入力します。



すぐにすべての情報を入力できない場合、[Lookahead] ページの [保存] をクリックして、これまで入力した情報を保存してください。

一部のアクションは、フィールドのステータスを変更します。たとえば、無効なフィールドを有効あるいは必須 (赤色のアスタリスク付き) にできます。新たに有効または必須になったフィールドについては、ヘッダセクションと詳細セクションを確認してください。

リクエストには、別のリクエスト (またはほかの参照エンティティ) が完了するまで保留中にする参照リレーションシップを設定できます。リクエストにこのような参照リレーションシップがある場合、利用できるアクションに **[オーバーライド]** ボタンがあります。参照リレーションシップをオーバーライドし、リクエストがワークフローに従って続行できるようにするには、**[オーバーライド]** をクリックします。

3. ヘッダセクションで、必要に応じてフィールドに入力します。

ヘッダセクションには、リクエストに関する一般的な情報が含まれています。必須フィールドには、赤色のアスタリスクが付いています。ほかのすべてのフィールドはオプションです。特定のフィールドに関する情報については、フィールドの横にある **[ヘルプ]** アイコン (使用可能な場合) をクリックします。

必要に応じて、リクエストタイプを変更できます。たとえば、バグリクエストを機能拡張リクエストに変更できます。

リクエストタイプの変更には、リクエストに関連付けられているフィールドの変更も含まれます。リクエストタイプを変更する場合のデータ入力を簡略化するために、**HP Demand Management** では、オリジナルのリクエストタイプのフィールドを新しいリクエストタイプのフィールドにマップします。新規フィールドには値は含まれていません。リクエストタイプを変更するには、**[リクエストタイプ]** フィールドの横にある **[変更]** をクリックします。



リクエストのリクエストタイプを変更すると、リクエストプロセスが再起動されます。つまり、プロセスはアサインされたワークフローの最初のステップから再スタートします。リクエストでは、任意のメモと共通するフィールドが保持されます。

4. 詳細セクションで、必要に応じてフィールドに入力します。

詳細セクションには、リクエストに関する特定の情報が含まれています。このセクションには、サブセクションを設定できます。必須フィールドには、赤色のアスタリスクが付いています。特定のフィールドに関するその他の情報を表示するには、フィールドの横にある **[ヘルプ]** アイコン (使用可能な場合) をクリックします。

5. **[メモ]** セクションには、記録するリクエストに関する追加情報を入力します。

[メモ] セクションには、リクエストに関するメモを入力できるフィールドがあります。メモを追加するには、**[メモの追加]** セクションで、データを入力します。リクエストを保存すると、メモが追加されます。

既存のメモは、**[既存のメモ]** セクションで表示します。最新のメモがリストの一番上になり、既存のメモは時系列順にリスト表示されます。表示対象のメモをフィルタするには、次の1つまたは複数の操作を実行します。

- ユーザが入力したメモのみ表示するには、**[ユーザメモのみ表示]** チェックボックスを選択します。
- 特定のユーザが追加したメモを表示するには、**[メモの作者]** リストからユーザ名を選択します。
- 特定のフィールドの変更された値に関連するメモのみ表示するには、**[変更済みフィールド]** リストからフィールド名を選択します。

6. **[ステータス]** セクションで、リクエストステータスをレビューします。

[ステータス] セクションには、すべてのワークフローステップと各ステップのステータスがリストされます。現在のワークフローステップが強調表示されています。

ワークフローステップのリストに加えて、**[ステータス]** セクションには、次のリンクも含まれています。

- **[グラフィックビュー]**: リクエストに関連付けられているワークフローが表示されます。
- **[承認の詳細]**: 承認されたワークフローステップと完了したワークフローステップの詳細ビューが表示されます。
- **[トランザクションの詳細]**: 完了した各ワークフローステップの詳細情報が表示されます。

ワークフローステップが実行ワークフローステップの場合、リクエストの**[実行ログ]** にリンクされている可能性があります。特定のワークフローステップのリクエストの**[実行ログ]** を表示するには、**[ステップステータス]** 列で **[log]** をクリックします。

7. [参照] セクションを使用して、参照をリクエストに追加します。

既存の参照は、[参照] セクションのサブセクションで閲覧できます。既存の参照は、エンティティタイプでグループ化されています。たとえば、参照リクエストは[リクエスト] セクションにリスト表示されています。

既存の参照のリレーションシップを変更するには、[リレーションシップ] リストから、別のリレーションシップを選択します。参照を削除するには、参照名の左側にある[削除] アイコンをクリックします。

場合によっては、インターネットでアクセス可能なファイルを参照したり、ローカルマシンのドキュメントまたはファイルを現在のリクエストに添付したりする場合があります。パッケージ、タスク、ほかのリクエストなどほかのエンティティをリクエストへの参照として追加することもできます。参照の追加方法については、「リクエストへ参照を追加」(39ページ)を参照してください。

8. [保存] をクリックします。

PPM Dashboard でページを移動すると、表示したページがトラッキングされます。PPM Dashboard の上部でこれらのページへのリンクを確認できます。



The screenshot shows the HP Project and Portfolio Management Center interface. At the top left is the HP logo. The main header reads "Project and Portfolio Management Center". Below this is a navigation bar with several tabs: "ダッシュボード" (Dashboard), "開く" (Open), "検索" (Search), "作成" (Create), "マイリンク" (My Links), "履歴" (History), and a star icon. Below the navigation bar, there is a breadcrumb trail: "ダッシュボード > Key Status Information > リクエストの検索". The main heading is "リクエストの検索" (Search Requests). At the bottom, there is a search input field labeled "詳細を表示するリクエスト番号:" (Request number to display details:) and a button labeled "実行" (Execute).

前のページに戻るには、ページの上部にある対応するリンクをクリックします。

リクエストの同時編集

2人のユーザが同時に同じリクエストを編集して、**[保存]** をクリックした場合、HP Demand Management では、両方のユーザが行った変更を保存しようとしません。変更が保存されていない場合、HP Demand Management は入力したユーザに通知し、そのユーザに再度変更を行い保存するよう促します。



PPM Center インスタンスが複数の言語をサポートしている場合、リクエストタイプを定義した言語でのみ変更できます。現在のセッション言語と別の言語で定義されていたため、リクエストタイプを編集できない場合は、PPM Center をログアウトしてから、再度ログオンし、今回はセッション言語としてリクエストタイプの定義言語を選択します。詳細については、『Multilingual User Interface Guide』を参照してください。

例: 2人のユーザによるフィールドの編集

2人のユーザ、Otumbo と Monette が別の場所で作業し、同じリクエストを編集しています。

- Otumbo は、**[アサイン先]** フィールドと **[部署]** フィールドに変更を加え、**[メモ]** フィールドにテキストを追加します。
- Monette は、**[アサイン先]** フィールドと **[会社]** フィールドに変更を加え、**[メモ]** フィールドにテキストを追加します。

1. Otumbo が最初に **[保存]** をクリックします。

彼のすべての変更が保存されます。

2. Monette が次に **[保存]** をクリックします。

Monette の **[メモ]** は保存されますが、リクエストの上部のメッセージによると、別のユーザがリクエストに対して変更を行ったことが通知され、それらの変更が表示されます。Monette は、**[アサイン先]** フィールドと **[会社]** フィールドに対する変更を再入力する必要があります。

3. Monette は、再度 **[アサイン先]** フィールドと **[会社]** フィールドの値を変更し、**[保存]** をクリックします。

変更内容が保存されます。

例: 2人のユーザによるフィールドとワークフローアクションの編集

2人のユーザ、**Otumbo**と**Monette**が別の場所で作業し、同じリクエストを編集しています。どちらのユーザにも、リクエストを次のワークフローステップに進めるアクセス許可があります。

1. **Otumbo**は、リクエストの[**メモ**]セクションに変更を加え、ワークフローアクションボタンをクリックします。

Otumboの変更が保存され、リクエストがそのワークフローに従って先に進みます。

2. **Monette**は、添付ファイルをリクエストに追加し、ワークフローアクションボタンをクリックします。

リクエストへの添付ファイルは保存されますが、リクエストの上部にあるメッセージによって、**Monette**に彼女が試行したワークフローアクションがすでに実行されていることが通知されます。それ以上のアクションは不要です。

例: 並列ワークフローステップ

Otumboと**Monette**は、ワークフローの並列ブランチに従って処理されている同じリクエストを編集しています。どちらのユーザも、問題なく別個に並列ブランチに従ってリクエストを処理できます。

クイック編集: 複数のリクエストの同時編集

HP Demand Management のクイック編集機能を使用すると、1つのページから多数のリクエストを同時に変更できます。編集するリクエストを検索するだけです。結果のリストから編集するリクエストを選択して、**[クイック編集]** をクリックします。選択したリクエストが、[リクエストの変更] ページのスプレッドシート形式のインタフェースに1行ずつ表示されます。リストされている各リクエストの有効なフィールドを個別に編集してから、それらすべてのフィールドを同時に保存できます。

クイック編集の実行は、たとえば、次のような場合に便利です。

- アサインされていないリクエストを検索して、処理する必要がある20個の新規リクエストが検索されたとします。これらのリクエストのうち15個を特定のリソースにすぐにアサインし、それぞれに優先度を指定します。
- DEM - アプリケーションバグタイプの新しいリクエストをすべて検索した後、優先度を指定し、それぞれに正しいアプリケーションが指定されていることを確認します。

クイック編集機能は、デフォルトで有効になっています。無効にするには、サーバ設定パラメータの `DISABLE_QUICK_EDIT_MASS_UPDATE` を `true` に設定します。詳細については、『HP Demand Management 設定ガイド』を参照してください。



「PFM - 月別終了期間」検証を、「非PFM - 提案」リクエストタイプに使用しないでください。[クイック編集] または [一括更新] を、「PFM - 月別終了期間」検証を使用して「非PFM - 提案」リクエストタイプで実行するとエラーが発生します。これは、「PFM - 月別終了期間」検証では、SQL を実行するのにトークン `KNTA_PLAN_START_DATE` を使用したフィールドが必須ですが、「非PFM - 提案」リクエストタイプのほとんどでこのようなフィールドがないためです。

クイック編集を実行する際の注意

HP Demand Management で実行するクイック編集には、次の制限があります。

- クイック編集は、すべて同じタイプのリクエストでのみ実行できます。このため、リクエストを検索してクイック編集を実行する場合、1種類のリクエストタイプのみ選択してください。

- クイック編集では、複数のリクエストに対して設定される高度なUIルールは機能しません。たとえば、フィールドを動的に表示/非表示にする、フィールドスタイリングを変更する、またはフィールドを必須にするために定義されるUIルールは、ユーザがクイック編集の実行中は適用されません。ただし、リクエストの保存時に、ユーザが行ったほかの編集に基づいて動的に、必須となるフィールドが強制されます。
- クイック編集では、標準のリクエストフィールド（テキストフィールド、日付フィールド、リストなど）は更新できますが、添付ファイル、テーブルコンポーネント、エンティティセレクトコンポーネント（スタッフインダクションファイルなど）などの複雑なコンポーネントは編集できません。
- クイック編集では、ワークフローアクションを実行したり、基本的なフィールド値以外のリクエストの要素を更新したりできません。たとえば、クイック編集では、メモの追加、参照の更新、リソースの管理を行うことはできません。
- PPM Center インスタンスが複数の言語をサポートしている場合、リクエストタイプを定義した言語でのみ編集できます。現在のセッション言語と別の言語で定義されていたため、リクエストタイプを編集できない場合は、PPM Center をログアウトしてから、再度ログオンし、今回はセッション言語としてリクエストタイプの定義言語を選択します。詳細については、『Multilingual User Interface Guide』を参照してください。

クイック編集: エラー処理

[保存] または **[完了]** をクリックすると、システムでは、更新されたすべてのリクエストを保存しようとして、問題が発生すると、保存できなかったリクエストのリスト、および保存が失敗した理由を表示します。

エラーは次の場合に発生する可能性があります:

- 変更を保存する前に、リクエストが別のセッションの別のユーザによって更新された場合。
- 保存時に空のフィールドを必須にするUIルールがトリガされた場合（「クイック編集を実行する際の注意」(98ページ)を参照）。

クイック編集の実行

リクエストのセットでクイック編集を実行するには、次の手順を実行します。

1. 更新する同じタイプのリクエストのセットを検索します。

[リクエスト検索結果] ページが開き、検索結果がリスト表示されます。

リクエスト番号	説明	ステータス	作成者	優先度	ワークフロー	作成日
<input type="checkbox"/> 30906	Portal 2.0 - SSO Patch Application	新規	Admin User	Normal	DEM - Enhancement Request Process	April 18, 2010
<input checked="" type="checkbox"/> 30572	Order Fulfillment automation	権限仕様待ち	Admin User	Normal	DEM - Enhancement Request Process	February 13, 2010
<input type="checkbox"/> 30549	UAT Test Scripting	保留中	Admin User	Normal	DEM - Enhancement Request Process	January 30, 2010
<input type="checkbox"/> 30548	Apply Patch	権限仕様待ち	Admin User	Critical	DEM - Enhancement Request Process	January 30, 2010
<input type="checkbox"/> 30547	Service Configurations	権限仕様待ち	Admin User	Normal	DEM - Enhancement Request Process	January 30, 2010
<input type="checkbox"/> 30546	Update SLA	権限仕様待ち	Admin User	Normal	DEM - Enhancement Request Process	January 30, 2010
<input type="checkbox"/> 30545	Multi-Order Upgrade	権限仕様待ち	Admin User	High	DEM - Enhancement Request Process	January 30, 2010
<input type="checkbox"/> 30544	Web Reorg	保留中	Admin User	Normal	DEM - Enhancement Request Process	January 30, 2010
<input type="checkbox"/> 30543	Price Management	権限仕様待ち	Admin User	Normal	DEM - Enhancement Request Process	January 30, 2010
<input type="checkbox"/> 30542	Need to work on Transaction Interface	新規	Admin User	Critical	DEM - Enhancement Request Process	January 30, 2010

2. クイック更新を実行するリクエストのチェックボックスを選択します。
3. リクエストのリストの下にある [編集] をクリックして、[クイック編集] を選択します。

提案番号	リクエストタイプ	説明	ステータス	アサイン先	優先度	作成者
30131	PFM - 提案		新規			Admin User
30137	PFM - 提案		新規			Admin User
30138	PFM - 提案		新規			Admin User

[リクエストの変更] ページが開き、選択したリクエストがリストされます。

4. 編集するリクエストが表示されている行をクリックします。

編集する権限を与えられているフィールドが有効になります。

リクエストの変更						
提案番号	リクエストタイプ	説明	ステータス	アサイン先	優先度	作成者
30131	PFM - 提案		新規			Admin User
30137	PFM - 提案	<input type="text"/>	新規			Admin User
30138	PFM - 提案		新規			Admin User

5. 編集する有効なフィールドに対して変更を行います。

6. 残りの各リクエストについて、手順 4 と手順 5 を繰り返します。

7. 更新内容を保存し、[リクエストの変更] ページを表示したままにするには、[保存] をクリックします。更新内容を保存し、[リクエストの変更] ページを閉じるには、[完了] をクリックします。



リクエストブラウザからクイック編集機能を使用することもできます。リクエストブラウザを使用してリクエストを検索する方法については、「リクエストブラウザを使用したリクエストの検索」(88 ページ) を参照してください。

PPM Dashboard でページを移動すると、表示したページがトラッキングされます。PPM Dashboard の上部でこれらのページへのリンクを確認できます。



 **Project and Portfolio Management Center**

ダッシュボード ▾ 開く ▾ 検索 ▾ 作成 ▾ マイリンク ▾ 履歴 ▾ ★

ダッシュボード - Key Status Information > リクエストの検索

リクエストの検索

詳細を表示するリクエスト番号:

[検索結果] ページなどの前のページに戻るには、このページの上部にある対応するリンクをクリックします。

一括更新: 複数のリクエストに対するアクションの同時実行

同じタイプの複数のリクエストに対して同じアクションを実行する場合、リクエスト一括更新機能を使用できます。所定のタイプのリクエストだけを検索し、個々のリクエストを更新するのではなく、リクエストのセット全体を更新します。

次のような場合に、一括更新が役立ちます。

- 開発マネージャが新規の不具合リクエストすべてを検索します。そのうちの20個を同じ開発者にアサインします。この中には、20個すべてのリクエストの[アサイン先]フィールドの更新、およびそのステータスの新規からアサイン済みへの変更が含まれています。
- 現在、15個のリクエストがあなたにアサインされています。あなたは長期休暇を取得するため、これらすべてのリクエストを別のエンジニアに再アサインする必要があります。
- 同じ特定の利害関係者を特定の顧客アカウントからのエスカレーションに追加して、アクティビティによって生成された電子メールの管理をこれらのエスカレーションにコピーできるようにする必要があります。

このような場合は、リクエスト一括更新によって素早く簡単に処理できます。

一括更新機能は、デフォルトで有効になっています。無効にするには、サーバ設定パラメータのDISABLE_QUICK_EDIT_MASS_UPDATEをtrueに設定します。詳細については、『HP Demand Management 設定ガイド』を参照してください。



「PFM - 月別終了期間」検証を、「非PFM - 提案」リクエストタイプに使用しないでください。[クイック編集] または [一括更新] を、「PFM - 月別終了期間」検証を使用して「非PFM - 提案」リクエストタイプで実行するとエラーが発生します。これは、「PFM - 月別終了期間」検証では、SQL を実行するのにトークンKNTA_PLAN_START_DATEを使用したフィールドが必須ですが、「非PFM - 提案」リクエストタイプのほとんどでこのようなフィールドがないためです。

一括更新を実行する際の注意

リクエスト一括更新機能を使用する場合、次の制限事項に注意してください。

- バッチ更新では、1種類のリクエストタイプのみサポートされています。

- 標準のリクエストフィールド(テキストフィールド、日付フィールド、リストなど)、ワークフローアクションを更新でき、メモをリクエストに追加できます。添付ファイル、テーブルコンポーネント、エンティティセレクタコンポーネント(スタッフィングプロファイルなど)などの複雑なコンポーネントに対して、一括更新は実行できません。
- 一括更新中は、複数のリクエストに対して設定される高度なUIルールは機能しません。たとえば、フィールドを動的に表示/非表示にする、フィールドスタイリングを変更する、フィールドを必須にするために定義されるUIルールは、ユーザが一括更新の実行中は適用されません。ただし、リクエストの保存時に、ユーザが行ったほかの編集に基づいて動的に、必須となるフィールドが強制されます。
- 更新するために選択したすべてのリクエストが同じワークフローステップでアクティブな場合、すべてのリクエストのそのステップに対してアクションを実行できます。ただし、一度に1つのアクティブなワークフローステップのみ更新できます。

さらに、更新がどのように自動化プロセスに影響を与えるかを考慮してください。何らかの更新を実行すると、続けてほかの依存フィールドの更新がトリガされる可能性があります。

PPM Center インスタンスが複数の言語をサポートしている場合、リクエストタイプを最初に定義した言語でのみ変更できます。現在のセッション言語と別の言語で定義されていたため、リクエストタイプを編集できない場合は、PPM Center をログアウトしてから、再度ログオンし、今回はセッション言語としてリクエストタイプの定義言語を選択します。詳細については、『Multilingual User Interface Guide』を参照してください。



一括更新: エラー処理

[保存] または [完了] をクリックすると、システムでは、更新されたすべてのリクエストを保存しようとします。問題が発生すると、保存できなかったリクエストのリスト、および保存が失敗した理由を表示します。

エラーは次の場合に発生する可能性があります:

- 変更を保存する前に、リクエストが別のセッションの別のユーザによって更新された場合。
- 保存時に空のフィールドを必須にするUIルールがトリガされた場合(「一括更新を実行する際の注意」(102ページ)を参照)。

一括更新の実行

リクエスト一括更新機能を使用するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. **[検索]**メニューで、**[リクエスト]**をクリックします。
3. 更新するリクエストタイプのリクエストを検索します。
4. **[リクエスト検索結果]**ページで、更新するリクエストのチェックボックスを選択します。
5. **[編集]**をクリックし、**[一括更新]**を選択します。

[リクエストの変更]ページが開き、選択したリクエストがリストされます。

6. 次のいずれかを実行します。
 - **[利用できるアクション]**セクションが使用可能な場合、アクションボタンをクリックして、選択したすべてのリクエストの同じワークフローステップに対してアクションを実行できます。
 - すべてのリクエストに対して同じ説明を入力するには、**[説明]**列の下のフィールドに入力します。

すべてのリクエストの**[説明]**フィールドを空にするには、**[説明]**列の下にある**[空白にする]**チェックボックスを選択します。

- 同じリソースをすべてのリクエストにアサインするには、**[アサイン先]**列の下にあるオートコンプリートを使用して、アサインするリソースの名前を指定します。

すべてのリクエストの**[アサイン先]**フィールドを空にするには、**[アサイン先]**列の下にある**[空白にする]**チェックボックスを選択します。

- 同じ優先度をすべてのリクエストにアサインするには、**[優先度]**列の下にある**[優先度]**リストから、優先度の値を選択します。

すべてのリクエストの**[優先度]**フィールドを空にするには、**[優先度]**列の下にある**[空白にする]**チェックボックスを選択します。




フィールドがある列に対してのみ一括更新を使用できます。

7. [完了] をクリックします。

[リクエストバッチ更新の確認] ウィンドウが開き、行おうとしている変更がリスト表示されます。

8. リストされた内容が意図するものと同じかを確認するには、[続行] をクリックします。

▶ リクエストブラウザから一括更新機能を使用することもできます。リクエストブラウザを使用してリクエストを検索する方法については、「リクエストブラウザを使用したリクエストの検索」(88 ページ) を参照してください。

指定された何らかの変更を実装できなかった場合、警告アイコン  の横にあるページの左上隅に、その影響を示すメッセージが、保存できなかったすべてのリクエストと理由を説明する別のウィンドウへのリンクとともに表示されます。

PPM Dashboard でページを移動すると、表示したページがトラッキングされます。PPM Dashboard の上部でこれらのページへのリンクを確認できます。



[検索結果] ページなどの前のページに戻るには、このページの上部にある対応するリンクをクリックします。

フィールドレベルのセキュリティチェック

PPM Center では、次のシナリオに事前チェックを追加することにより、一括更新でセキュリティチェックを行えます。

- **[一括更新]** をクリックして、選択した複数のリクエストで一括更新を実行すると、セキュリティチェックが実行され、選択したリクエストに一括更新の操作エラーが発生する可能性のある潜在的な問題があるかどうかを検証します。セキュリティチェックには、次の事前チェックがあります。
 - **ステータス依存関係のチェック**：編集不可フィールドのフィールドステータス依存関係をチェックします。

- **フィールドレベルセキュリティの検証**：選択したリクエストのフィールドレベルセキュリティを検証し、ユーザに適切な権限があるか確認します。

- **表示のみチェック**：表示のみのフィールドをチェックします。

これらの事前チェックを実施すると、[リクエストバッチ更新] ページに、次のように更新するリクエストが表示されます。

- 1つの列が、選択したすべてのリクエストで編集不可の場合、この列は、読み取り専用として表示されてグレーアウトします。
 - 1つの列が、ユーザが更新するよう選択したリクエストで1つでも編集可能になっているリクエストがある場合、この列は編集可能として表示されます。
- [リクエストバッチ更新] ページで **[保存]** または **[完了]** をクリックすると、一括更新が有効であるかどうかのリクエストのステータスチェックなど、さらにいくつかの該当する事前チェックが行われます。

潜在的なエラーが存在する場合、たとえば、

- 事前チェックで、リクエストフィールドの **[編集可能]** オプションが現在のステータスで **[いいえ]** に設定されている場合など、このフィールドへの更新は適用されません。
- リクエストに、ユーザに編集許可のないフィールドが含まれている場合、リクエストは更新されません。

次に、警告メッセージが [リクエストバッチ更新の確認] ページに表示され、更新できない可能性のあるリクエストがその理由とともにリスト表示されます。この事前警告メッセージにより、操作を続行するかどうかを判断できます。

- **ワークフロー遷移チェック**：ワークフローアクションを、[リクエストバッチ更新] ページでクリックすると、セキュリティチェック、リクエストステータスのチェック、アクションが選択したリクエストに対し行えるかどうかのチェックなど、いくつかの事前検証が行われます。潜在的なエラーが存在する場合、ユーザに対する警告メッセージが [リクエストバッチ更新の確認] ページに表示され、更新できない可能性のあるリクエストがその理由とともにリスト表示されます。

リクエストの管理

HP Demand Management でリクエストを送信後、必要なアクセス許可を持つユーザは、ビジネス要件またはワークフローに対する変更に応じて、そのリクエストを表示、変更、または削除できます。

クローズしたリクエストの再オープン

ワークフローの事前設定されたステップでリクエストを再オープンすることができます。たとえば、不具合リクエストがクローズされていて、不具合が再発する場合、リクエストを再オープンできます。

リクエストを再オープンするには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. リクエストを検索し、オープンします。



リクエストをオープンする方法については、「[リクエストを開いて更新](#)」(90 ページ) を参照してください。

[リクエスト詳細] ページが開きます。

3. [ジャンプ先] ナビゲーションパネルから [ステータス] をクリックします。
4. [リクエストの再オープン] をクリックします。

リクエストが再度開きます。

リクエストの削除

PPM Centerからは、保存されたリクエストのみ削除できます。リクエストを削除するには、「Demand Management: リクエストの編集」アクセス許可または「Demand Management: すべてのリクエストの編集」アクセス許可のいずれかが必要です。削除したリクエストは、開くことも、表示することもできなくなります。

リクエストを削除するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログインします。
2. リクエストを検索し、オープンします。



リクエストをオープンする方法については、「[リクエストを開いて更新](#)」(90 ページ) を参照してください。

[リクエスト詳細] ページが開きます。

3. 右上隅の [**リクエストの削除**] をクリックします。

HP Demand Management から、リクエストの削除の確認を求められます。

4. [OK] をクリックします。

リクエストのキャンセル

PPM Centerでは、保存されたリクエストのみキャンセルできます。保存されたリクエストをキャンセルするには、「Demand Management: リクエストの編集」アクセス許可または「Demand Management: すべてのリクエストの編集」アクセス許可のいずれかが必要です。

既存のリクエストをキャンセルするには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. リクエストを検索し、オープンします。
3. 右上隅の[詳細]>[リクエストのキャンセル]をクリックします。

HP Demand Managementから、キャンセルの確認を求められます。

4. [OK]をクリックします。

これで各ワークフローステップがキャンセルされ、リクエストステータスが[キャンセル済み]に設定されます。

リクエストの印刷

リクエストの詳細ページを印刷できます。



詳細ページの印刷用バージョンは、変更できません。

リクエストを印刷するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. リクエストを検索し、オープンします。



リクエストをオープンする方法については、「[リクエストを開いて更新](#)」(90 ページ) を参照してください。

[リクエスト詳細] ページが開きます。

3. 右上隅の **[印刷]** をクリックします。

ページの印刷用バージョンが、新しいブラウザウィンドウに開きます。

4. ページの印刷用バージョンで、**[印刷]** をクリックします。

リクエストの削除

複数のリクエストを同時に削除できます (必要なアクセス許可がある場合)。削除されたリクエストは、開くことも、表示することもできません。

複数のリクエストを削除するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。
2. 削除するリクエストを検索します。

[検索結果] ページが開きます。

3. **[リクエスト検索結果]** セクションで、削除するリクエストのチェックボックスを選択します。
4. **[削除]** をクリックします。

Demand Management レポートを使用したリクエストの監視

HP Demand Management には、表 4-2 にリストされているレポートの事前定義されたセットがあります。「システム：レポートの送信」アクセス許可がある場合、いつでもこれらのレポートを生成してリクエストアクティビティを監視できます。

表 4-2. HP Demand Management レポート (1/2 ページ)

レポート名	説明
連絡先の詳細	リクエストの入力と更新が可能な HP Demand Management システムに入力済みの連絡先をクエリします。
デマンド作成履歴	指定されたデマンドセットのデマンド作成履歴を表示します。このレポートは、Microsoft Excel やその他のデータ分析ツールにリクエストデータをエクスポートするのに便利です。
SLA 違反履歴	指定されたデマンドセットの SLA 違反履歴を表示します。このレポートは、Microsoft Excel やその他のデータ分析ツールにリクエストデータをエクスポートするのに便利です。
リクエストのインポート	リクエストデータを検証し、HP Demand Management オープンインタフェーステーブルから標準 HP Demand Management データモデルにリクエストデータを読み込みます。
処理されたデマンドの履歴	指定されたデマンドセット用に処理されたデマンドの履歴を表示します。
リクエスト詳細	選択基準を複数使用してリクエストに関する情報を示します。
リクエスト詳細 (カスタムフィールドでフィルタ)	カスタムフィールドの値に基づいてリクエストをフィルタできる点を除き、リクエスト詳細レポートと類似しています。
リクエストヘッダタイプ詳細	リクエストヘッダタイプの設定の詳細を示します。セットアップを監査し、特定のリクエストヘッダタイプで発生する可能性がある問題をデバッグするのに便利です。

表 4-2. HP Demand Management レポート (2/2 ページ)

レポート名	説明
リクエスト履歴	選択された各リクエストの完全なワークフローとフィールド変更履歴をリスト表示します。詳細には、完全なリクエストワークフロー履歴と監査用に設定したフィールド、および部分実行された各ステップの各ステータス変更が含まれています。
デマンドリスト	組織またはリソースへのデマンドのリストを示します。このポートレットを設定して、デマンドタイプ、アサインされている優先度の値、デマンド処理状況などの基準に基づきフィルタされたデマンド情報を表示できます。
リクエストのクイックビュー	オープンしているリクエスト、クローズしたリクエストのサマ리를優先度に基づいて整理して示します。
リクエストサマリ	選択基準に一致するリクエストのグループの合計カウントを表示します。
リクエストサマリ (カスタムフィールドでフィルタ)	カスタムフィールドの値に基づいてリクエストをフィルタできる点を除き、リクエストサマリレポートと類似しています。
リクエストタイプ詳細レポート	カスタムフィールド、取り得るステータス値、デフォルトのロジック、および各リクエストタイプで使用されるコマンドに関する詳細を含む、リクエストタイプの設定情報を表示します。

PPM Center でのこれらのレポートとその他の事前定義されたレポートの設定および実行方法の詳細については、『Reports Guide and Reference』を参照してください。

HP Demand Management レポートの作成

HP Demand Management レポートを作成するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログインします。
2. **[作成]** メニューで、**[レポート]** をクリックします。
[新規レポートの送信] ページが開きます。
3. **[レポートカテゴリ]** リストから、**[Demand Management]** を選択します。
[レポートの送信:<レポート名>] ページが開きます。
4. 必要なすべてのフィールド、およびレポートの作成に使用する任意のフィールドに入力します。
5. **[送信]** をクリックします。

ポートレットを使用したリクエストの管理

HP Demand Management リクエストポートレットを使用すると、リクエスト情報を整理して表示し、さらに、表示されたデータをドリルダウンしてさらに詳細を表示できます。表 4-3 に、PPM Dashboard ページ (事前設定された [デマンドマネージャ] ページを含む) に追加して情報ニーズを満たすようにカスタマイズできる、デマンド関連ポートレットをリスト表示します。

[デマンドマネージャ] ページに表示されるデフォルトのポートレットについては、「[デマンドマネージャ] ページ上のポートレット」(125 ページ) を参照してください。ポートレットに表示される情報を設定する方法については、「ポートレットプリファレンスの設定」(130 ページ) を参照してください。

表 4-3. デマンド関連ポートレット(1/4 ページ)

ポートレット名	説明
[アサインキュー]	リソースにまだアサインされていないデマンドのカスタマイズ可能なビューを示します。このポートレットを使用して、リクエストにリソースをアサインします。
[デマンド集計]	組織に対するデマンドの概要を棒グラフで表示します。ドリルダウン機能により、表示されるリクエストに関する詳細を表示できます。
[デマンド(カテゴリ別)]	デマンドのさまざまな側面のグラフィカルサマリビューを示します。ポートレットに表示される情報は、[部署]、デマンドタイプ、[優先度] の値などに基づいて整理できます。特定のグループ化(数)内のデマンドエントリの個数、またはグループ化されたデマンドの統合された工数を基に、表示する情報を整理することもできます。
[デマンドリスト]	組織またはリソースへのデマンドのカスタマイズ可能なリストを示します。
[問題リスト]	プログラムに関連付けられているオープン済み問題をリスト表示します。

表 4-3. デマンド関連ポートレット(2/4 ページ)

ポートレット名	説明
[マイリクエスト]	現在のユーザによって作成されたか、あるいは、現在のユーザにアサインされたリクエストで、ユーザが実行できるワークフローステップにあるリクエストをすべて表示します。このポートレットは、最も緊急度の高いリクエストのビューを示します。デフォルトでは、ユーザが作成したか、あるいは、ユーザにアサインされているすべてのリクエスト(現在のアクティブなステップを持つ)を表示し、ユーザがポートレットをカスタマイズせずに情報を確認できるようにします。
[オープン済みリクエスト(優先度別)]	オープンされているリクエスト数をアサインされている優先度値別にグループ化したグラフィックビューです。オープンされている問題を視覚化し、グループ化できます。
[プログラムリスクリスト]	プログラムとプログラムにリンクされているプロジェクトに関連付けられているリスクをリスト表示します。ポートレットをカスタマイズして、プログラム、プロジェクト、インパクト、オカレンスの確率、[インパクトレベル]、その他の基準に基づいてリスクを表示できます。アサインされているアクティビティに関連するプログラムのみを表示するよう設定できます。
[プログラムのスコープ変更リスト]	<p>プログラムにリンクされているプロジェクトに関連付けられているスコープ変更リクエストをすべて表示します。このポートレットの複数のインスタンスを設定し、さまざまなプログラムおよびそれらがリンクされているプロジェクトに対して記録されているスコープ変更を表示することができます。</p> <p>カスタマイズして、[プロジェクト名]、[重要度]、[変更リクエストレベル]などの基準に基づいてスコープ変更リクエストを表示できます。</p>
[リクエストアクティビティ]	過去2週間にオープンされたリクエスト数とクローズされたリクエスト数や、現在オープンしているリクエスト数など、一般的なアクティビティについての情報を示します。アクセスの多いリクエストタイプ、およびそのリクエストタイプの担当としてアサインされたグループやユーザを表示します。

表 4-3. デマンド関連ポートレット(3/4 ページ)

ポートレット名	説明
[リクエストリスト]	<p>リクエストに関する一般的な情報を表示します。これには、説明およびステータスが含まれます。[リクエスト番号]リンクをクリックすると、対応するリクエストの詳細ページを開くことができます。</p> <p>PFM - 資産、PFM - 提案、PFM - プロジェクト、プロジェクト詳細などのリクエストタイプのリクエストに対応する列を表示するよう設定し、必要なアクセス許可がある場合、PPM Centerの対応するエンティティへのリンクでもある、これらの値をクリックできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [スタッフィング プロファイル] ● [財務ベネフィット] ● [参照ドキュメント] <p>このポートレットのドリルダウン機能は、セキュリティベースです。エンティティに対する [表示]、[編集]、[すべて表示]、[すべて編集] のアクセス権限がない場合、その値はリンクとして表示されません。</p>
[リクエスト参照]	<p>[リクエスト参照] ポートレットは、[参照タイプ]、[リレーションシップ]、参照を追加した期間などのフィルタに基づいて、パッケージに関連付けられた参照をリストします。</p>
[リクエストサマリ]	<p>アサインされている [優先度]、[リクエストタイプ]、各カテゴリのリクエスト合計数など、リクエストのグループについての情報を表示します。任意のリクエスト、またはリクエストグループをドリルダウンできます。</p>
[リクエストサマリの棒グラフ]	<p>選択したリクエストに関してロールアップされた情報を棒グラフで表示します。その棒グラフが表すリクエストのリストを表示するには、棒グラフをクリックします。</p>

表 4-3. デマンド関連ポートレット(4/4 ページ)

ポートレット名	説明
[リクエストサマリの円グラフ]	選択したリクエストに関してロールアップされた情報を円グラフで表示します。円グラフの部分が表すリクエストのリストを表示するには、円グラフの部分をクリックします。
[SLA例外のロールアップ]	<p>アクティブなサービスレベルアグリーメント (SLA) に含まれる、すべてのオープンされているデマンドをグラフィック (棒グラフ) 表示します。SLAはリクエストタイプルールで設定されます。情報ニーズに応じて、[部署]、[アプリケーション]、デマンドタイプ、その他の基準に基づいてSLA情報をグループ化できます。</p> <p>違反は赤色で強調表示されます。違反するリクエストのリストを表示するには、[これらの例外の表示] をクリックしてください。</p>

HPには、デマンドマネージャが使用するリクエスト関連のデフォルトポートレットを含む、事前設定された [デマンドマネージャ] ページが用意されています。[デマンドマネージャ] ページの詳細とこのページを PPM Dashboard に追加する方法については、第 6 章「[デマンドマネージャ] ページ」(123 ページ)を参照してください。

第5章 リクエストとプロジェクトの統合

リクエストとプロジェクトの統合の概要

HP Demand Management と HP Project Management の両方を所有しているカスタマは、HP Demand Management のリクエストトラッキング機能を HP Project Management の送信可能日付と実際日付のトラッキング機能と統合できます。HP Demand Management と HP Project Management を統合することで、リクエストをインタロッキングイニシアティブのスケラブルなフレームワークへシームレスに折りたたむことができます。

タスクを HP Demand Management のリクエストにリンクしても、プロジェクトをサポートしている詳細アクティビティを即座に表示できます。プロジェクト、タスク、およびリクエスト間に指定可能なリレーションシップは次のとおりです。

- **リクエストに対するタスクの参照:** [タスクの詳細] ページの [参照] タブを使用すると、タスクを新規および既存のリクエストにリンクできます。
- **リクエストからのプロジェクトの参照:** [タスクの詳細] ページの [参照] タブを使用すると、リクエストから既存のプロジェクトを参照できます。リクエストからプロジェクトを参照する方法については、「[リクエストへの参照の追加の概要](#)」(38 ページ) を参照してください。
- **リクエストからのタスクの参照:** [タスクの詳細] ページの [参照] タブを使用すると、リクエストから既存のタスクを参照できます。リクエストからタスクを参照する方法については、「[リクエストへの参照の追加の概要](#)」(38 ページ) を参照してください。

リクエストとプロジェクトを統合すると、2つのエンティティ間に依存リレーションシップが確立されます。たとえば、リクエストをパッケージの先行タスクとして指定できます。これは、リクエストがクローズされるまでパッケージがそのワークフローに従って進めないことを意味します。表 5-1 は、リクエストとタスク間、およびリクエストとプロジェクト間に作成できる依存リレーションシップの一覧です。

表 5-1. 依存リレーションシップ

エンティティからエンティティ	依存リレーションシップ	説明
リクエストからタスク	このリクエスト関連	(情報) 選択したタスクはリクエストに関連付けられています。
リクエストからプロジェクト	このリクエスト関連	(情報) 選択したプロジェクトはリクエストに関連付けられています。
プロジェクトからリクエスト	このプロジェクト関連	(情報) 選択したリクエスト (新規または既存) はこのプロジェクトに関連付けられています。
タスクからリクエスト	このタスク関連	(情報) 選択したリクエストはタスクに関連付けられています。

リレーションシップの詳細については、「[リクエストの詳細ページ](#)、[\[参照\]セクション](#)」(76ページ)を参照してください。

タスクからのリクエストの参照

タスクからリクエストを参照するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. **[検索]**メニューで、**[プロジェクト]**をクリックします。
[プロジェクトの検索]ページが開きます。
3. 検索基準を入力します。
4. **[検索]**をクリックします。

[プロジェクト検索]ページが再読み込まれ、検索結果が表示されます。

5. プロジェクトを開くには、[プロジェクト名] リストからプロジェクト名をクリックします。

6. [プロジェクトサマリ] タブで、[作業計画] セクションの上部にある [作業計画の編集] をクリックします。

[作業計画の表示] ページがスケジュールビューに開きます。

7. タスクのリストで、更新するタスクを選択し、[タスクの詳細] アイコンをクリックします。

[タスクの詳細] ページが開きます。

8. [参照] タブをクリックします。

9. [新規参照] リストから、[リクエスト(既存)] または [リクエスト(新規)] を選択します。

10. [追加] をクリックします。

[リクエスト(既存)] を選択した場合、[参照の追加: リクエスト] ページが開きます。[リクエスト(新規)] を選択した場合、[新規リクエストの作成] ウィンドウが開きます。

11. [リクエスト(既存)] を選択した場合、次の手順を実行します。それ以外の場合、[122 ページの手順 12](#)に進みます。

a. [参照の追加: リクエスト] ページで検索基準を入力して、[検索] をクリックします。

[リクエスト検索結果] セクションに、検索基準に一致するリクエストがリスト表示されます。

b. [リクエスト検索結果] セクションで、参照として追加するリクエストの横にあるチェックボックスを選択します。

c. [追加] をクリックします。

[参照の追加: リクエスト] ページが閉じ、[タスクの詳細] ページが開きます。[参照] タブの [保存時に追加される参照] フィールドに、選択したリクエストが表示されます。

12. **[リクエスト (新規)]** を選択した場合、**[新規リクエストの作成]** ウィンドウで次の手順を実行します。

a. **[リクエストタイプ]** フィールドで、リクエストタイプを選択します。



リクエストとタスク間では、「このタスク関連」のみ指定できます。

b. **[作成]** をクリックします。

[新規<リクエストタイプ>の作成] ウィンドウが開きます。

c. すべての必須情報（赤色のアスタリスクが付いている）と役立つ任意の情報を入力して、**[送信]** をクリックします。

[新規<リクエストタイプ>の作成] ウィンドウが閉じ、**[タスクの詳細]** ページが開きます。**[参照]** タブの **[保存時に追加される参照]** フィールドに、今作成したリクエストが表示されます。

13. **[完了]** をクリックします。

リクエストはタスクに対して参照されます。**[タスクの詳細]** ページが閉じ、**[作業計画の表示]** ページが開きます。

14. 作業計画に対する変更を保存するには、**[完了]** をクリックします。

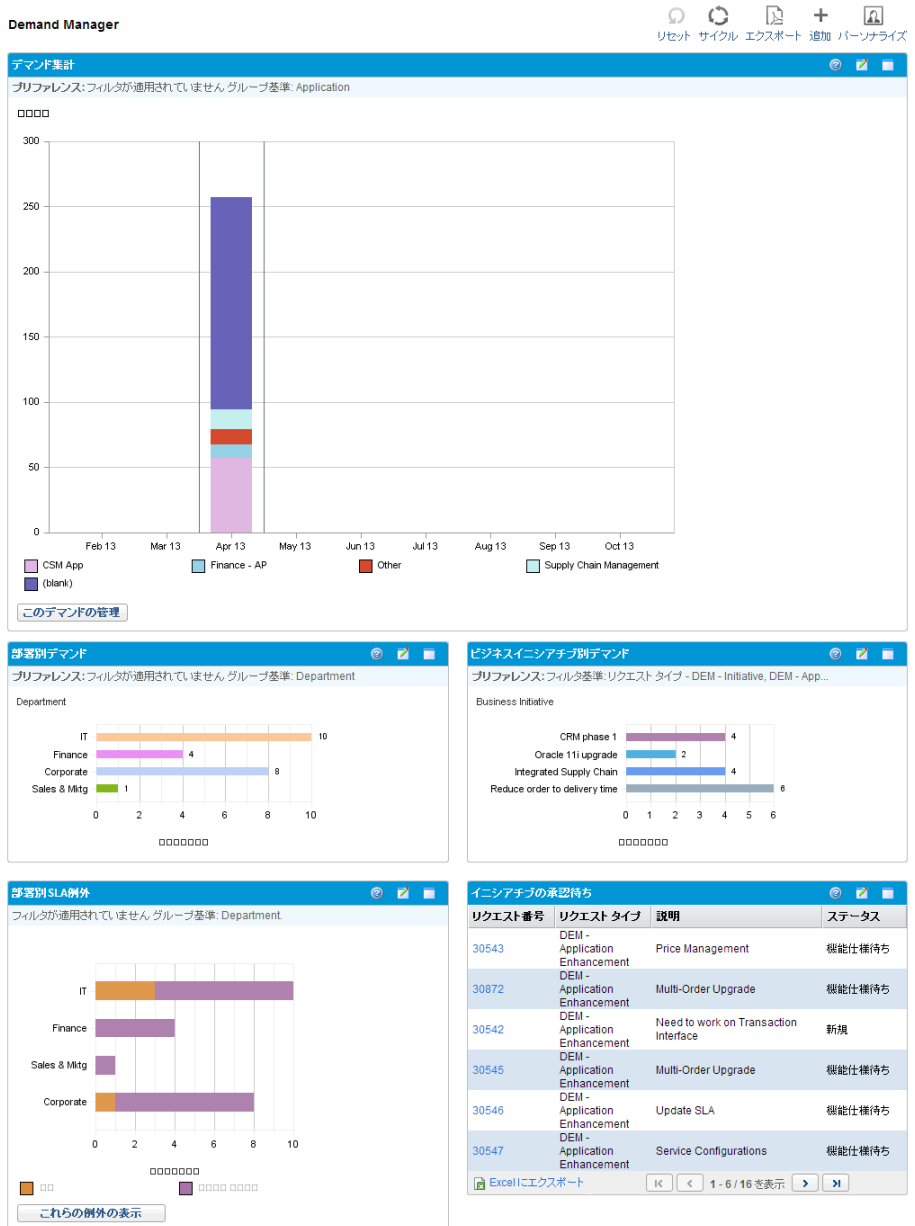
第 6 章 [デマンドマネージャ] ページ

[デマンドマネージャ] ページの概要

HP Demand Management には、デマンドマネージャが使用するデフォルトのポートレットセットを表示する、事前設定された [デマンドマネージャ] ページ (図 6-1 を参照) が用意されています。情報ニーズに応じて、ページ上に追加のデマンド関連ポートレットを表示し、各ポートレットが表示するデータをカスタマイズできます。

本章では、[デマンドマネージャ] ページに表示されるデフォルトのポートレットの説明、およびページに追加できるデマンド関連ポートレットについて説明します。[デマンドマネージャ] ページに表示されるポートレットをカスタマイズする方法に関する情報もあります。[デマンドマネージャ] ページを PPM Dashboard に追加する方法については、『スタートアップガイド』を参照してください。

図 6-1. [デマンドマネージャ] ページ



[デマンドマネージャ] ページ上のポートレット

この項では、[デマンドマネージャ] ページに表示されるデフォルトのポートレットについて説明します。これらのポートレットをカスタマイズする方法については、「[ポートレットプリファレンスの設定](#)」(130ページ)を参照してください。

[デマンド集計] ポートレット

[デマンド集計] ポートレット (図 6-2) は、組織へのデマンドの概要をグラフィックで示します。グラフのセクションをドリルダウンすると、デマンドカテゴリを満たすようにスケジューリング、デマンドを却下、表示するデータのフィルタを選択できます。


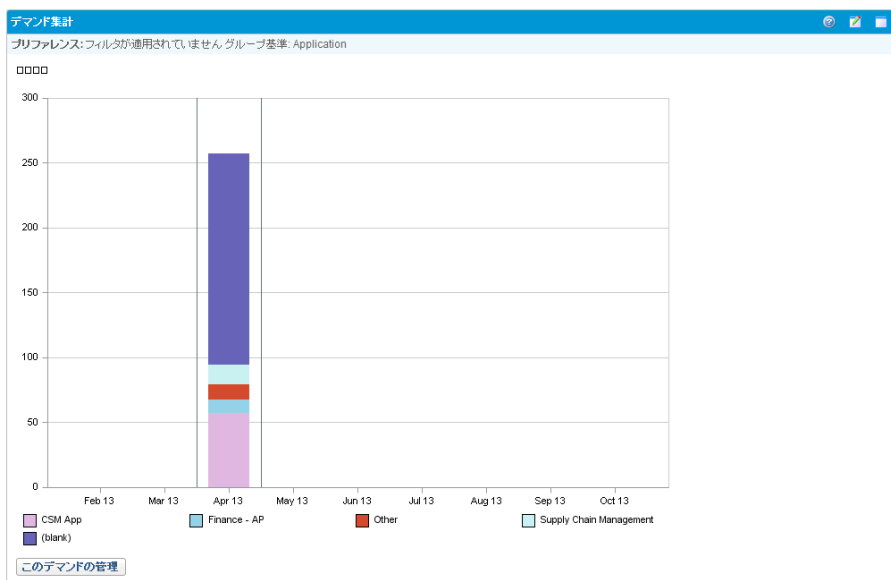
[デマンド集計] ポートレットの構成に使用できるすべてのフィルタフィールドの説明を表示するには、ポートレットの右上隅にある [ヘルプ] アイコン  をクリックします。

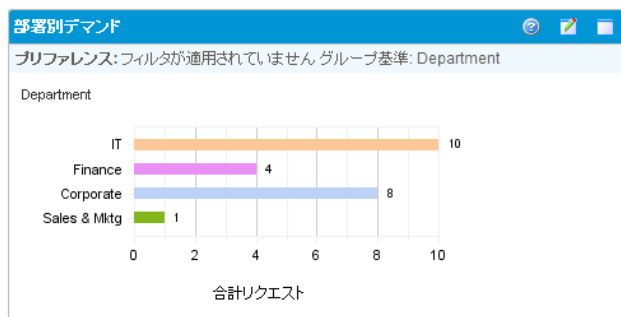
図 6-2. [デマンド集計] ポートレット




[部署別デマンド] ポートレット

[部署別デマンド] ポートレット (図 6-3) は、デマンドのさまざまな領域のグラフィカルサマリビューです。ポートレットをカスタマイズすると、[部署]、[デマンドタイプ]、[優先度] などに基づいてデマンド情報を表示できます。特定のグループ化(数)内のデマンドエントリの個数、またはグループ化されたデマンドの統合された工数を基に、ポートレットを構成してグループ化された情報を表示することもできます。

図 6-3. [部署別デマンド] ポートレット



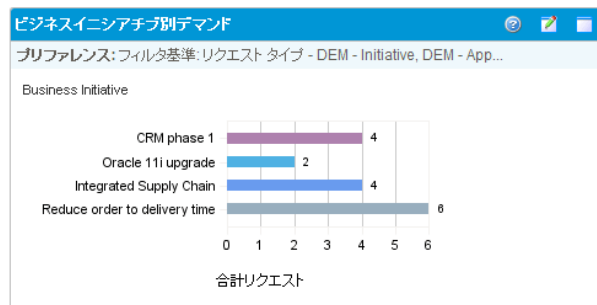
[部署別デマンド] ポートレットを構成できるすべてのフィルタフィールドの説明を表示するには、ポートレットの右上隅にある [ヘルプ] アイコン  をクリックします。


[ビジネスイニシアチブ別デマンド] ポートレット

[ビジネスイニシアチブ別デマンド] ポートレット (図 6-4) は、デマンドのさまざまな側面のグラフィカルビューです。このポートレットは、デマンドを [部署]、[デマンドタイプ]、[優先度] などによってグループ化できるサマリを示します。

特定のグループ化 (数) 内のデマンドエントリの個数、またはグループ化されたデマンドの統合された工数を基に、ポートレットをカスタマイズしてグループ化された情報を表示することもできます。

図 6-4. [ビジネスイニシアチブ別デマンド] ポートレット



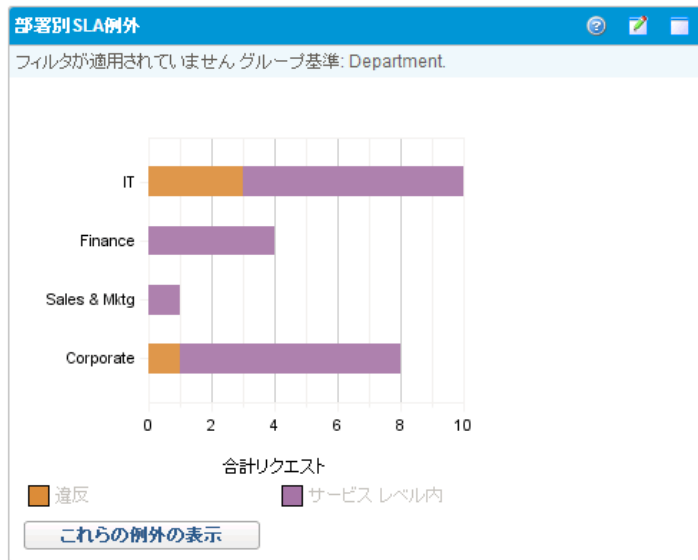
[ビジネスイニシアチブ別デマンド] ポートレット用に構成できるすべてのフィルタフィールドの説明を表示するには、ポートレットの右上隅にある [ヘルプ] アイコン  をクリックします。

[部署別SLA例外] ポートレット

[部署別SLA例外] ポートレット (図 6-5) は、サービスレベルアグリーメント (SLA) に含まれるすべてのオープンされているデマンドを棒グラフで表示します。SLAはリクエストタイプルールで設定されます。このポートレットは、デマンドに関連するアクティブなSLAを表示し、違反は赤色で強調表示します。

違反するリクエストのリストを表示するには、[これらの例外の表示] をクリックしてください。このポートレットに表示されるSLA情報は、[部署]、[アプリケーション]、[デマンドタイプ] などに基いてデマンドをフィルタすることでカスタマイズできます。

図 6-5. [部署別SLA例外] ポートレット



[部署別SLA例外] ポートレットを構成できるすべてのフィルタフィールドの説明を表示するには、ポートレットの右上隅にある[ヘルプ]アイコン(?) をクリックします。

[イニシアチブの承認待ち] ポートレット

[イニシアチブの承認待ち] ポートレット (図 6-6) は、PPM Center リクエストに関する一般的な情報を表示します。これには、説明およびステータスが含まれます。このポートレットは、[リクエストリスト] ポートレットと同じリクエスト基準でフィルタできますが、より詳細なリクエスト情報を表示します。


このポートレットをカスタマイズして、[リクエストリスト] ポートレットに表示される情報と同じ情報を表示し、さらにより詳細な情報も表示できます。

図 6-6. [イニシアチブの承認待ち] ポートレット

イニシアチブの承認待ち			
リクエスト番号	リクエストタイプ	説明	ステータス
30543	DEM - Application Enhancement	Price Management	機能仕様待ち
30872	DEM - Application Enhancement	Multi-Order Upgrade	機能仕様待ち
30542	DEM - Application Enhancement	Need to work on Transaction Interface	新規
30545	DEM - Application Enhancement	Multi-Order Upgrade	機能仕様待ち
30546	DEM - Application Enhancement	Update SLA	機能仕様待ち
30547	DEM - Application Enhancement	Service Configurations	機能仕様待ち

Excelにエクスポート

1 - 6 / 16 を表示

[イニシアチブの承認待ち] ポートレットを構成できるすべてのフィルタフィールドの説明を表示するには、ポートレットの右上隅にある [ヘルプ] アイコン  をクリックします。

ポートレットプリファレンスの設定

ポートレットが表示するデータ、およびある程度のデータの表示方法を設定できます。

ポートレットのプリファレンスを設定するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. 編集するポートレットが表示されているPPM Dashboardページを開きます。
3. ポートレットの右上隅にある **[編集]** アイコンをクリックします。
[プリファレンスの編集:<ポートレット名>] ページが開きます。
4. ページに表示されるポートレットのタイトルを変更するには、次の手順を実行します。
 - a. ページの上部にある **[タイトルを変更]** をクリックします。
[ポートレットタイトルの編集] ウィンドウが開きます。
 - b. **[タイトル]** フィールドで、現在のタイトルを選択し、新しいタイトルを入力します。
 - c. タイトルを保存するには、**[変更]** をクリックします。
5. **[プリファレンス]** セクションと **[表示列の選択]** セクションで、必要な変更を行います。



[プリファレンス] セクションでコントロールの説明を表示するには、ポートレットに戻り、右上隅にある **[ヘルプ]** アイコンをクリックします。

6. **[完了]** をクリックします。

ポートレットに変更が反映されます。

ポートレットの使用については、次のドキュメントを参照してください。

- 『ポートレットとモジュールの作成』
- 『標準インタフェースのカスタマイズ』
- 『スタートアップガイド』

索引

D

Demand Management

- はじめに, **9**
- リクエストの概要, **53**
- レポート, **113**

H

HP Demand Management

- 複数言語の使用, **14**

P

PPM ダッシュボード

- ポートレットプリファレンスの設定, **130**

S

[SLA 違反履歴] ポートレット, **111**

[SLA 例外のロールアップ] ポートレット,
117

U

UI ルール

- 一括更新中の UI ルール, **103**

URL

- リクエストへ追加, **49**

あ

アサイン

- リソースのリクエストへのアサイン, **34**

[アサインキュー] ポートレット, **114**

い

一括更新

- 一括更新中の UI ルール, **103**

エラー処理, **103**

使用する際の考慮事項, **102**

リクエストに一括更新を実行, **104**

リクエストの一括更新, **102**

[イニシアチブの承認待ち] ポートレット,
129

印刷

- リクエスト, **58, 110**

え

エラー処理

- 一括更新, **103**

クイック編集集中のエラー処理, **99**

お

[オープン済みリクエスト (優先度別)] ポー
トレット, **115**

か

関連ドキュメント, **15**

き

キャンセル

リクエスト, **109**

く

クイック編集

クイック編集集中のエラー処理, **99**

実行方法, **100**

説明, **98**

クエリビルダ

クエリビルダの使用, **85**

使用されている比較演算子, **85**

使用されている論理演算子, **87**

グラフィックビュー, **72**

け

検索

クエリビルダを使用したリクエスト, **85**
リクエスト, **82**

リクエストクエリ内で使用されている比較演算子, **85**

リクエストクエリ内で使用されている論理演算子, **87**

リクエスト (詳細), **84**

リクエストの検索, **81**

リクエストの詳細検索, **84**

リクエストブラウザを使用したリクエスト, **88**

検索用語

クエリ内のグループ化, **87**

こ

更新

複数のリクエストの同時更新, **102**

リクエスト, **90**

コピー

リクエスト, **26, 58**

さ

サービス

サービスフィールドの有効化, **50**

リクエストのサービスの指定, **50**

削除

リクエスト, **110**

作成

リクエスト, **17, 20, 24**

参照

後続タスクリレーションシップ, **80**

終了 - 終了先行タスクリレーションシップ, **80**

先行タスクリレーションシップ, **80**

リクエストへの追加, **38**

リクエストリレーションシップ, **77**

し

[事前設定されたダッシュボード] ページ
[デマンドマネージャ] ページ, **125**

実行ログ, **75**

詳細リクエスト検索, **84**

承認の詳細, **74**

[処理されたデマンドの履歴] ポートレット, **111**

[新規リクエストの作成] ページ, **22**

す

ステータス

リクエスト, **12**

た

タスク

リクエストからの参照, **120**

リクエストへ追加, **48**

つ

追加

- URL を参照としてリクエストへ追加, **49**
- 既存パッケージを参照としてリクエストへ追加, **40**
- 既存リクエストを参照としてリクエストへ追加, **46**
- 新規パッケージを参照としてリクエストへ追加, **41**
- 新規リクエストを参照としてリクエストへ追加, **47**
- タスクを参照としてリクエストへ追加, **48**
- プログラムを参照としてリクエストへ追加, **43**
- プロジェクトを参照としてリクエストへ追加, **44**
- リクエストの参照, **38**
- リリースを参照としてリクエストへ追加, **45**

て

- [デマンド (カテゴリ別)] ポートレット, **114**
- [デマンド作成履歴] ポートレット, **111**
- [デマンド集計] ポートレット, **114, 125**
- [デマンドマネージャ] ページ
概要, **123**
[デマンドマネージャ] ページ上のポートレット, **125**
- [デマンドリスト] ポートレット, **112, 114**
- 電子メール通知
リクエストを開く, **91**
- 添付ファイル
リクエストへ参照を追加, **39**

と

- トランザクション履歴, **75**

は

パッケージ

- リクエストへ参照として追加, **40, 41**
- リクエストへ追加, **40, 41**

ひ

比較演算子

- リクエストクエリ内で使用されている比較演算子, **85**

- [ビジネスイニシアチブ別デマンド] ポートレット, **127**

開く

- 電子メールからリクエストを開く, **91**
- ポートレットを使用してリクエストを開く, **91**
- メニューバーを使用してリクエストを開く, **91**
- リクエスト, **90**

ふ

- [部署別 SLA 例外] ポートレット, **128**
- [部署別デマンド] ポートレット, **126**
- プリファレンス
PPM ダッシュボードページ上のポートレット, **130**
- プログラム
参照としてリクエストを追加, **43**
リクエストへ追加, **43**
- [プログラムのスコープ変更リスト] ポートレット, **115**
- [プログラムリスクリスト] ポートレット, **115**
- プロジェクト
参照としてリクエストへ追加, **44**
リクエストの統合, **119**
リクエストへ追加, **44**

へ

編集

- 単純リクエスト編集, **92**
- 複数のリクエストのクイック編集, **100**

ほ

ポートレット

- SLA 違反履歴, **111**
- SLA 例外のロールアップ, **117**
- アサインキュー, **114**
- [イニシアチブの承認待ち]ポートレット, **129**
- オープン済みリクエスト(優先度別), **115**
- 処理されたデマンドの履歴, **111**
- タイトルの変更, **130**
- デマンド(カテゴリ別), **114**
- デマンド関連, **114**
- デマンド作成履歴, **111**
- デマンド集計, **114, 125**
- [デマンドマネージャ]ページ上のポートレット, **125**
- デマンドリスト, **112, 114**
- ビジネスイニシアチブ別デマンド, **127**
- 部署別 SLA 例外, **128**
- 部署別デマンド, **126**
- プリファレンスの設定, **130**
- プログラムのスコープ変更リスト, **115**
- プログラムリスクリスト, **115**
- 問題リスト, **114**
- リクエストアクティビティ, **115**
- リクエストサマリ, **112, 116**
- リクエストサマリの円グラフ, **117**
- リクエストサマリの棒グラフ, **116**
- リクエスト参照, **116**
- リクエスト詳細, **111**
- リクエストのインポート, **111**
- リクエストの管理, **114**
- リクエストのクイックビュー, **112**
- リクエストヘッダタイプ詳細, **111**

- リクエストリスト, **116**
- リクエスト履歴, **112**
- リクエストを開く, **91**
- 連絡先の詳細, **111**

本章の概要, **9**

ま

[マイリクエスト]ポートレット, **115**

め

- メニューバー
- リクエストを開く, **91**

も

[問題リスト]ポートレット, **114**

り

- リクエスト, **46**
- URL を追加, **49**
- 一括更新, **102**
- 一括更新の実行, **104**
- 印刷, **110**
- 管理, **107**
- 管理の概要, **81**
- 既存パッケージの追加, **40**
- 基本検索, **82**
- キャンセル, **109**
- クエリビルダ検索, **85**
- グラフィックビュー, **72**
- クローズしたリクエストの再オープン, **107**
- 検索, **81, 82**
- 検索ブラウザを使用した検索, **88**
- 更新, **90**
- 後続タスクリレーションシップ, **80**
- コピー, **26, 58**
- 削除, **58, 108, 110**
- 作成, **17, 20, 24**

- 参照の追加, **38**
- 参照リレーションシップ, **77**
- 実行ログ, **75**
- 終了 - 終了先行タスクリレーションシップ, **80**
- 詳細検索, **84**
- 承認の詳細, **74**
- 処理とデータの整合性, **13**
- 新規パッケージの追加, **41**
- [新規リクエストの作成] ページ, **22**
- ステータスの定義, **12**
- 先行タスクリレーションシップ, **80**
- タイプ, **12**
- タスクからの参照, **120**
- タスクの追加, **48**
- 単純編集, **92**
- 通知からリクエストを開く, **91**
- 定義, **12**
- トランザクション履歴, **75**
- 開く, **90**
- 複数のリクエストの同時編集, **96**
- プログラムの追加, **43**
- プロジェクトの追加, **44**
- プロジェクトの統合, **119**
- ポートレットを使用した管理, **114**
- ポートレットを使用してリクエストを開く, **91**
- メニューバーを使用してリクエストを開く, **91**
- リクエストタイプの定義, **12**
- リクエストの一括更新, **102**
- リクエストの詳細ページの印刷, **58**
- リクエストの詳細ページの概要, **54**
- リクエストへ追加, **46, 47**
- リソースのアサイン, **34**
- リリースの追加, **45**
- レポートを使用した監視, **111**
- [リクエストアクティビティ] ポートレット, **115**
- [リクエストサマリの円グラフ] ポートレット, **117**
- [リクエストサマリの棒グラフ] ポートレット, **116**
- [リクエストサマリ] ポートレット, **112, 116**
- [リクエスト参照] ポートレット, **116**
- [リクエスト詳細] ポートレット, **111**
- リクエストタイプ, **12**
- 選択, **21**
- [リクエストタイプ詳細レポート] ポートレット, **112**
- リクエストに対するデータの整合性, **13**
- [リクエストのインポート] ポートレット, **111**
- リクエストの監視
- Demand Management レポート, **111**
- リクエストの管理, **107**
- 概要, **81**
- ポートレットの使用, **114**
- [リクエストのクイックビュー] ポートレット, **112**
- リクエストの再オープン, **107**
- リクエストの削除, **58, 108**
- リクエストの参照, **88**
- リクエストの詳細ページ
- グラフィックビュー, **72**
- [参照] セクション, **76**
- 実行ログ, **75**
- [詳細] セクション, **61**
- 承認の詳細, **74**
- [ステータス] セクション, **71**
- タイトルセクション, **58**
- トランザクション履歴, **75**
- [ヘッダ] セクション, **60**
- [メモ] セクション, **69**
- [リソース] セクション, **70**

リクエストブラウザ

リクエストを検索するための使用, **88**

[リクエストヘッダタイプ詳細]ポータルレット, **111**

[リクエストリスト]ポータルレット, **116**

[リクエスト履歴]ポータルレット, **112**

リソース

リクエストへのリソースのアサイン, **34**

[リソース]セクション

リクエストの詳細ページ, **70**

リリース

リクエストへ追加, **45**

れ

レポート

Demand Management, **113**

リクエストの監視用, **111**

[連絡先の詳細]ポータルレット, **111**

ろ

論理演算子

リクエストクエリ内で使用されている論理演算子, **87**

わ

ワークフロー

定義, **12**

ワークフローステップの定義, **12**